

令和3年度

# 教育要項

奈良県立医科大学

医学部 看護学科



# 目 次

奈良県立医科大学の理念、方針、ポリシー

令和3年度 年間教務日程

令和3年度 看護学科時間割(前期・後期)

1. 看護学科の概要	7
1) 設置の趣旨	
2) 基本的な考え方	
3) 学科の特色	
4) 教育目標	
5) 入学定員、修業年限及び学位	
6) 取得できる資格	
2. 看護学科の教育課程	8
1) 医学部看護学科授業科目履修要領	
(1) 令和2年度以降入学生の教育課程	
(2) 平成29年～31年度入学生の教育課程	
2) 保健師課程のアドミッションポリシー及び履修要領	
3) 卒業に必要な単位数	
4) 科目の読み替えについて	
3. 1年次開講科目の授業内容	22
4. 2年次開講科目の授業内容	84
5. 3年次開講科目の授業内容	138
6. 4年次開講科目の授業内容	172

教員名簿（看護学科専任・教養教育部門専任・兼任・非常勤）

## はじめに

大学では、高校までと違い、実にさまざまな授業科目が開講され、その中から何を選択して受講するかは、学生自らが決めることになっています。この「教育要項」は、そのためのガイドラインです。目次に示されているように看護学科の概要、教育課程、履修要領等が掲載されています。特に授業内容の詳細は、担当教員があらかじめ学生に示す教育プラン（目的・目標・内容・授業方法等）で、皆さんにとっては、学習計画や履修科目を選択するうえで、最も基本的な資料となります。科目の目的や内容をしっかり理解するとともに、各科目がどのように関連しているかも考慮したうえで、自らの学習プランを立ててください。

大学設置基準では、1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成するとしています。時間割は、授業の方法に応じ、教育効果、授業時間外に必要な学修等を考慮して、原則として講義及び演習は15～30時間で組まれています。残りの時間については、学生が事前・事後に教室外において準備学習・復習を行う時間で、一つの授業科目の内容を確実に理解するには、その時間が極めて重要です。

この冊子を見れば、どの時期にどんな内容について学習するかが分かりますので、積極的に活用してください。

## 理念

本学は、医学、看護学およびこれらの関連領域で活躍できる人材を育成するとともに、国際的に通用する高度の研究と医療を通じて、医学および看護学の発展を図り、地域社会さらには広く人類の福祉に寄与することを理念とする。

## 教育の理念と方針

**理念** 豊かな人間性に基づいた高い倫理観と旺盛な科学的探究心を備え、患者・医療関係者、地域や海外の人々と温かい心で積極的に交流し、生涯にわたり最善の医療提供を実践し続けようとする強い意志を持った医療人の育成を目指します。

**方針**

1. 良き医療人育成プログラムの実践
2. 教員の教育能力開発と教育の質保証
3. 教育全般に関する外部有識者評価と学生参加の推進
4. 学習環境と教育環境の充実

## 奈良県立医科大学医学部看護学科のアドミッションポリシー、 カリキュラムポリシー、ディプロマポリシー

### 看護学科アドミッションポリシー

1. 自らを律し、人を思いやる心をもつ、人間性豊かな人
2. 幅広い知識と確かな基礎学力を有し、看護学への興味と科学的探究心をもって学習に取り組める人
3. 国際的な視野で考え行動できるとともに、地域の保健・医療・福祉に貢献する熱意と行動力のある人
4. 奈良県立医科大学を愛し、その将来を担う志をもつ人

### 看護学科カリキュラムポリシー

医学部看護学科であることを最大限に生かし、医学教育と連携して、専門性の高い知識、技術、態度を身につけた学生を育成することを目標として、看護教育カリキュラムを構成する。

1. 専門基礎分野における「人間の理解」と「社会の理解」において人間の尊厳と生命の尊重を理解し、高い倫理観を養う教養科目を配置する。
2. 専門基礎分野における「社会の理解」と「生活・環境の理解」、「健康の理解」において対象者の健康と疾病、障害、環境に関する専門知識および観察力を養う科目を配置する。
3. 専門分野における「看護学の基本」と「看護学の展開」において対象者の健康状態を的確にアセスメントでき、個別性のある看護が展開できる実践能力を養う科目を配置する。
4. 専門分野における「看護学の発展と探究」において看護に関する研究能力を養う科目を配置する。
5. 専門基礎分野における「国際理解」と専門分野における「看護学の発展と探究」において国際社会と地域社会で活躍できる能力を養う科目を配置する。

### 看護学科ディプロマポリシー

所定の期間在学し、カリキュラムポリシーに沿って設定した授業科目を履修し、履修規程で定められた卒業に必要な単位を修得することが学位授与の要件である。卒業時には以下の能力が求められる。

1. 生命の尊厳と患者の権利を擁護できる高い倫理観に基づいた全人的ケアを提供できる基礎能力を身につけている。
2. 目的意識を持って、対象者に応じた科学的根拠のある技術の適用と必要性を判断できる基礎能力を身につけている。
3. 対象者の健康状態を的確にアセスメントでき、個別性のある看護を展開する基礎的な実践技術を身につけている。
4. 保健医療における関連職種との協働やヘルスケアシステムにおけるマネジメントの基礎的能力を身につけている。
5. 国際社会および地域社会で活躍できる資質を身につけている。
6. 看護職者としてのアイデンティティを確立し、人間的に成長し続ける姿勢を身につけている。

## 令和3年度 年間教務日程

日 程		学 事
令和3年	4月2日 (金)	在学生ガイダンス
	4月5日 (月)	入学式
	4月6日 (火)	新入生ガイダンス
	4月7日 (水)	前期授業開始
	4月29日 (木)	祝日開講日(昭和の日)
	7月26日 (月) ~ 7月30日 (金)	前期試験
	8月2日 (月) ~ 9月16日 (木)	夏期休業 <sup>[注1]</sup>
	8月23日 (月)	大学院入学試験(1次募集) <sup>[注2]</sup>
	9月6日 (月) ~ 9月10日 (金)	医学看護学合同教育科目集中講義(前期)
	9月16日 (木)	解剖慰霊祭
	9月17日 (金)	後期授業開始
	10月15日 (金) ~ 10月17日 (日)	大学祭
	11月21日 (日)	看護学科推薦入試(学校推薦型選抜) <sup>[注2]</sup>
	12月1日 (水)	大学院入学試験(2次募集)[予定] <sup>[注2]</sup>
12月27日 (月) ~ 1月3日 (月)	冬期休業	
令和4年	1月15日 (土) ~ 1月16日 (日)	大学入学共通テスト <sup>[注2]</sup>
	1月18日 (火) ~ 1月24日 (月)	後期試験
	1月31日 (月) ~ 2月4日 (金)	医学看護学合同教育科目集中講義(後期)
	2月25日 (金) ~ 2月26日 (土)	一般選抜(前期日程)試験 <sup>[注2]</sup>
	3月3日 (木)	保健師課程選抜試験
	3月12日 (土) ~ 3月13日 (日)	一般選抜(後期日程)試験(医学科のみ) <sup>[注2]</sup>
	3月15日 (火)	卒業式(予定)
	3月16日 (水) ~ 入学式前日	春期休業

[注1] 夏期休業期間中に集中講義、追・再試験及び2・3・4年生臨地実習を行う。  
ただし、4年生は保健師課程履修者のみを対象とする。

[注2] 入学試験及び準備に当たる日は、校舎内立入禁止

# 令和3年度 看護学科 学事運営計画

令和3年

4月		5月		6月		7月		8月		9月		10月		11月		12月		1月		2月		3月	
1 木		1 土		1 火		1 木		1 日		1 水		1 金		1 月		1 水		1 火		1 火		1 火	
2 金	在学生ガイダンス	2 日		2 水		2 金		2 月	夏期休業開始	2 木		2 土		2 火		2 木		2 日		2 水		2 水	
3 土		3 月	憲法記念日	3 木		3 土		3 火		3 金		3 日		3 水	文化の日	3 金		3 月		3 木		3 木	
4 日		4 火	みどりの日	4 水		4 日		4 水		4 土		4 月		4 木		4 土		4 火		4 金		4 金	
5 月	入学式	5 水	こどもの日	5 木		5 土		5 木	前期退陣試験期間	5 日		5 火		5 金		5 日		5 水		5 土		5 土	
6 火	新入生ガイダンス	6 木		6 火		6 日		6 金		6 月	次世代医療人育成論	6 水		6 土		6 月		6 日		6 日		6 日	
7 水	前期休業開始	7 金		7 月		7 土		7 土	山の日	7 火	次世代医療人育成論	7 水		7 日		7 火		7 金		7 月		7 月	
8 木		8 土		8 火		8 木		8 日		8 水	次世代医療人育成論	8 金		8 月	基礎実習履修習Ⅰ	8 水		8 土		8 火		8 火	
9 金		9 日		9 水		9 金		9 月	振替休日	9 土	基礎看護学実習Ⅱ終了	9 土		9 火		9 木		9 日		9 水		9 水	
10 土		10 月		10 木		10 土		10 火	前期退陣試験期間	10 金	次世代医療人育成論	10 日		10 水		10 金		10 月		10 木		10 木	
11 日		11 火		11 金	基礎看護学実習Ⅱ	11 日		11 水		11 土		11 月		11 木		11 土		11 火		11 金	建国記念日	11 金	立入禁止日 (*1)
12 月		12 水		12 土		12 月		12 木		12 日		12 火		12 水		12 日		12 水		12 土		12 土	
13 火		13 木		13 日		13 火		13 金		13 月		13 水		13 土		13 月		13 木		13 日		13 日	
14 水		14 金		14 月	基礎看護学実習Ⅱ	14 水		14 火		14 木		14 金		14 日		14 火		14 金	入替履修(通分履修し)立入禁止日 (*2)	14 月		14 月	
15 木		15 土		15 火		15 木		15 水		15 金		15 土		15 日		15 水		15 土		15 日		15 日	
16 金		16 日		16 水		16 金		16 月		16 土	解剖総習祭	16 土		16 火		16 木		16 日		16 水		16 水	
17 土		17 月		17 木		17 土		17 火		17 金	後期授業開始 公衆衛生看護学実習(集中実習)終了	17 日		17 水		17 金		17 月		17 木		17 木	
18 日		18 火		18 金		18 日		18 水		18 土		18 月	基礎看護学実習Ⅰ	18 木		18 土		18 火		18 金		18 金	
19 月		19 水		19 土		19 月		19 木		19 日		19 火		19 水	立入禁止日 (*1)	19 日		19 水		19 土		19 土	
20 火		20 木		20 日		20 火		20 金	立入禁止日 (*1)	20 月	敬老の日	20 水		20 木		20 月		20 日		20 日		20 日	
21 水		21 金		21 月		21 水		21 土		21 火		21 木		21 金		21 火		21 月		21 月		21 月	
22 木		22 土		22 火		22 木		22 日		22 水		22 金		22 土		22 水		22 日		22 土		22 火	
23 金		23 月		23 水		23 金		23 火	スポーツの日	23 木	秋分の日	23 土		23 日		23 水		23 日		23 土		22 火	
24 土		24 火		24 木		24 土		24 水	【大学院入試】	24 金		24 土		24 日		24 木		24 月		24 日		23 水	
25 日		25 火		25 金	統合実習終了	25 日		25 水		25 土		25 月		25 火		25 木		25 日		25 金		24 木	
26 月		26 水		26 土		26 月		26 木		26 日		26 火		26 水		26 金		26 日		26 土		25 金	
27 火		27 木		27 日		27 火		27 金		27 月		27 水		27 木		27 土		27 日		27 月		26 土	
28 水		28 金		28 月		28 水		28 土		28 日		28 火		28 水		28 金		28 日		27 日		27 日	
29 木	祝日開講日(祝日の日)	29 土		29 火		29 木		29 日		29 水		29 木		29 金		29 土		29 日		29 月		28 月	
30 金		30 日		30 水		30 金		30 月	3年と看護学実習開始 公衆衛生看護学実習(集中実習)開始	30 土		30 日		30 火		30 木		30 日		30 日		29 火	
		31 月	統合実習開始			31 土		31 火				31 日				31 金		31 月		31 日		31 木	
月	3	4	4	4	4	4	3	14		1	4	5	3	1	5	3	1	14		1	14		
火	3	3	3	3	3	3	3	14		2	4	4	4	4	4	4	2	15		2	15		
水	4	4	4	4	4	4	3	15		2	4	3	4	4	3	4	2	15		4	15		
木	4	4	4	4	4	4	3	15		1	4	4	4	4	4	4	2	15		4	15		
金	4	4	4	4	4	4	3	15		2	4	4	4	4	4	4	2	15		4	15		

注 ◆・・・3/12/13の後期入試は、医学科のみ

注 立入禁止日について  
 (\*1)・・・試験準備のため、学内への立入禁止  
 (\*2)・・・試験準備のため、臨地実習の履修生以外は学内への立入禁止

休業日  
 【】は大学院

令和3年度看護学科時間割

【前期】

	月					火					水					木					金				
	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
1年生	人間栄養論	健康運動学A	健康運動学B	生物学		人体機能学	基礎生理学	病理医学I	微生物学		看護学概論	人体構造学	臨床英語I	看護補助の基本		教育実践論A	医療に 関わる 倫理 学 I A	基礎看護学実習 I		アジア文化論	化学	臨床英語I	哲学	興文化論 国際情勢論	
2年生				ヘルスアセスメント		英語表現法 I A	英語表現法 I B	健康障害と看護				小児看護学概論	病態医学 III	家族社会学		老年看護学概論	成人看護学概論	母性看護学概論	病態医学 III	精神看護学概論	公衆衛生看護学概論	基礎看護学実習 II	基礎看護学実習 II		
3年生																									
4年生																									

①基礎看護学実習Ⅱで、外来見学実習は、6月11日(金)、14日(月)午後実施する。また、病棟集中実習は、8月24日(火)～9月9日(木)に実施する。他の日程は、看護技術学Ⅱ、ヘルスアセスメント、健康障害と看護の時間に振り替えて実施する。  
②情報科学は、夏季休業中に5日間連続で集中開講(8月11日(木)、12日(木)、16日(月)、17日(火)、18日(水))

※「Advanced Clinical English」については、月曜～金曜5コマ目に関講

※非常勤講師の担当等により、授業時間が一部変更になる場合がある。

※不合格となった科目については、次年度以降の時間割の編成上、修業年限内に再履修できない場合がある。

①統合実習:5月31日(月)～6月25日(金)②保健師課程履修者:実習Ⅱ(市町村)は、5月～8月に地区審査・現地OR・家庭訪問実施。実習Ⅰ(保健所)は8月もしくは9月～10月に2日間、(学校)は9月～10月のうち各自調整した日程で2日間実習予定。  
③2021年度は国際看護Ⅱは休講とする。

1限目	9:00	～	10:30
2限目	10:40	～	12:10
3限目	13:00	～	14:30
4限目	14:40	～	16:10
5限目	16:20	～	17:50

←対象学生のみ必修科目

←選択科目

←複数クラスに分かれて開講される科目

←前期の前半または後半に開講される科目



【後期】

	月					火					水					木					金				
	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
1年生	臨床心理学	健康運動学B	健康運動学A	看護過程論	病態医学I	病態医学II	日本国憲法	基礎看護学実習I	生化学	臨床薬理学	臨床英語II	フィジカルアセスメント	臨床英語II	病態医学II	病態医学II	看護技術学I	医療に関する倫理学II	栄養学	西洋文化論						
①基礎看護学実習Iの外実習は、10月18日(月)・19日(火)、病棟実習は、11月8日(月)・9日(火)に実施する。他の日程は、看護技術学I、看護過程論、フィジカルアセスメントの時間に振り替えて実施する。②奈良学を1月31日(月)～2月4日(金)で開講																									
2年生	在宅看護学概論	公衆衛生看護学活動II	公衆衛生看護学活動I	公衆衛生看護学活動III	公衆衛生看護学活動I	英語表現法IIA	英語表現法IIB	公衆衛生看護学活動I	精神看護学援助論I	成人看護学援助論I	成人看護学援助論II	リハビリテーション看護	小児看護学援助論I	母性看護学援助論I	緩和ケア論	老年看護学援助論I	カウンセリング論	看護倫理学							
3年生	臨床実習(グループ別に実施)	臨床実習(グループ別に実施)	臨床実習(グループ別に実施)	臨床実習(グループ別に実施)	臨床実習(グループ別に実施)	臨床実習(グループ別に実施)	臨床実習(グループ別に実施)	臨床実習(グループ別に実施)	看護研究	看護研究	災害看護論	災害看護論	臨床実習(グループ別に実施)	臨床実習(グループ別に実施)	臨床実習(グループ別に実施)	臨床実習(グループ別に実施)	臨床実習(グループ別に実施)	臨床実習(グループ別に実施)							
4年生																									

①保健師課程履修者:実習I(保健所)は9月21日(火)～10月1日(金)のう5日間、(辯地)は10月中旬に2日間で実習予定。

※非常勤講師の担当等により、授業時間が一部変更になる場合がある。

※不合格となった科目については、次年度以降の時間割の編成上、修業年限内に再履修できない場合がある。

※「Advanced Clinical English」については、月曜～金曜5コマ目に開講

～前期の前半または後半に開講される科目	
～複数クラスに分かれて開講される科目	
～選択科目	
～対象学生のみ必修科目	

1限目	9:00	～	10:30
2限目	10:40	～	12:10
3限目	13:00	～	14:30
4限目	14:40	～	16:10
5限目	16:20	～	17:50

# 1 看護学科の概要

## 1) 設置の趣旨

近年、医療の高度化・専門化、急速な人口の高齢化をはじめ、看護をめぐる状況の急速な変化により、質の高い看護の提供が求められるとともに、介護保険サービス、子育て支援など、保健・福祉の分野においても、これまで以上に看護の対するニーズが高まっている。そのため、高度な専門知識・実践能力、豊かな人間性を備え、幅広い視野で問題に対応できる人材の育成が求められる。

本県においては、平成8年度から地域医療の中核機関である奈良県立医科大学に看護短期大学部を併設し、看護師及び助産師の養成を進めてきた。今後も引き続きその責務を果たし、さらに発展させていくには、豊かな人間性を育てる教育の強化を図るとともに、効率的なカリキュラムのもとで、看護学及び助産学の教育に保健学の分野も加えて教育し、専門教育をさらに充実させる必要がある。併せて、地域医療・福祉の向上に寄与するため、看護学の研究体制の充実強化も図る必要がある。

このような状況をふまえ、平成16年4月、奈良県立医科大学看護短期大学部看護学科（3年制課程）及び専攻科助産学専攻（1年課程）を統合発展させる形で、奈良県立医科大学医学部看護学科を設置した。

## 2) 基本的な考え方

看護職の業務は、人間関係の信頼と人間愛にもとづき、人道主義の概念が基盤にあってなし得るもので、看護を受ける個人や家族、地域集団の健康に関する諸問題に対し、支援する職務でもある。看護職にある者は、自己の業務範囲である機能と役割を真摯に受けとめ、看護の知識と、熟練した技術を追求し、看護を実践する能力を持ち合わせる必要がある。

そのため、絶え間なく変化する社会のニーズに対応することが出来るように、常に幅広い知識と国際感覚を身につけ、保健・医療・福祉の各領域との連携を密に、地域社会に貢献し得る人材を育成する。

## 3) 学科の特色

本学は、奈良県中央の大和三山に囲まれた緑豊かな場所に位置し、利便性においても交通網に恵まれたのどかな地にあり、奈良県民の健康管理面の中核機関として地域社会に貢献してきた。また、古くは、飛鳥時代の聖徳太子や奈良時代の光明皇后が病める人々に慈愛の看護を施されたといわれるなど、当地は看護の発祥の地とも言える。この歴史ある地に、この度設置された医学部看護学科は、高度医療に対応した看護実践能力の継承発展と、豊かな心の涵養を軸とした人間形成の開智に向け、大学全体が関わり、幅広く深い教養と総合的判断力を持った看護の専門職者として、積極的に社会に貢献しうる能力を持つ人材を育成する。

- (1) 卒業生全員が看護師の国家試験受験資格を取得するとともに、希望者は科目の選択により、保健師の国家試験受験資格を取得することができる。
- (2) 県民の高学歴化や生涯教育に対するニーズの高まりに応えるため、社会人入学制度を設け、看護職者の質の維持及び向上を図る目的で、編入学、科目等履修生等の制度を

設定する。

- (3) 本学の教育研究機能の積極的活用を図り、県内における看護職者との教育・研究等の交流を通して、看護に関する生涯教育の拠点としての役割を担う。
- (4) 看護や保健の分野で公開講座を開催し、県民福祉の向上に寄与する。

#### 4) 教育目標

- (1) 看護の対象である人間を全人的に理解し、生命の尊厳と権利を擁護する姿勢を持ち、倫理的判断に基づいた行動ができる能力を育成する。
- (2) 看護の目的および意義を理解し、対象者に応じた技術の適用と必要性の判断を自己決定できる実践能力を育成する。
- (3) 変化する社会のニーズやあらゆる人々に応じた看護の展開方法を修得し、さらに幅広い学問を探究することで、看護学固有の課題を追求し、改革する能力を育成する。
- (4) 大学生活や看護の実践を通して、自己を洞察し、看護職者としてのアイデンティティの形成、人間形成等、自己の成長に努める姿勢を育成する。
- (5) 医療および関連職種との協働の必要性を理解し、ヘルスケアシステムにおけるマネジメントの基礎的能力を育成する。
- (6) 地域および国際社会における看護職の役割を理解し、地域保健医療および国際協力活動に貢献できる基礎的能力を育成する。

#### 5) 入学定員、修業年限及び学位

	定員	修業年限	学位
入学定員	85人	4年	学士（看護学）

#### 6) 取得できる資格

看護師国家試験受験資格

保健師国家試験受験資格（選択により取得可能）

## 2 看護学科の教育課程

本学の教育目標を達成するために、授業科目を、人間・社会の理解、国際理解、生活・環境の理解、健康の理解、看護学の基本、看護学の展開、看護学の発展と探究の7区分とし、教育課程を構成している。開設する科目、単位数、時間数及び履修年次については、13～16頁の看護学科教育課程のとおりである。

# 奈良県立医科大学医学部看護学科授業科目履修要領

(目的)

**第1条** この要領は、奈良県立医科大学学則（平成19年4月1日以下、「学則」という。）第8条の規定により、医学部看護学科の授業科目（以下、「科目」という。）の名称、履修方法等に関し必要な事項を定めるものとする。

(科目等)

**第2条** 開設する科目、単位数、時間数及び履修年次は、別表1及び別表2のとおりとする。

(科目の履修)

**第3条** 学生は履修しようとする選択科目について、各学期の指定期間内に履修登録を行わなければならない。

- 2 学生は、前項の登録をした後においては、任意に履修科目の変更又は取り消しをすることはできない。ただし、学長が正当な理由と認めた場合はこの限りでない。
- 3 科目は、原則として定められた年次に履修するものとする。
- 4 単位を修得した科目は、再び履修することはできない。
- 5 入学前に他の大学等において修得した単位の認定については「奈良県立医科大学入学前の既修得単位の認定に関する規程」による。

(履修科目の制限等)

**第4条** 看護学実習科目については、次の要件を満たさなければ、履修することができない

- (1) 基礎看護学実習Ⅱを履修するためには、「健康の理解」に含まれる人体構造学・人体機能学、「看護学の基本」に含まれる科目のうち、第1年次に開講される科目（看護学概論・看護援助の基本・看護技術学Ⅰ・フィジカルアセスメント・看護過程論・基礎看護学実習Ⅰ）をすべて修得済みあるいは修得見込みであること。また、原則として、第2年次に開講される科目（看護技術学Ⅱ・健康障害と看護・ヘルスアセスメント）を修得済みあるいは修得見込みであること。
  - (2) 第3年次後期から始まる各看護学実習科目を履修するためには、第3年次前期終了までに開講される必修科目のうち別表1又は別表2に示す科目をすべて修得していること。ただし、別表1又は別表2の目的区分の「人間・社会の理解」「国際理解」「生活・環境の理解」「健康の理解」の必修科目において、5単位以内の未修得科目があっても、各看護学実習科目を履修できるものとする。また、教育課程の変更等でやむを得ない事由が生じた場合は別段の判断を行うことがある。
  - (3) 統合実習を履修するためには、第3年次後期までに開講されているすべての看護学実習科目を修得しなければならない。ただし、未修得の看護学実習科目が1科目の場合は、別段の判断を行うことがある。
- 2 第4年次で開講する保健師課程に関する科目を選択できる学生は20人以内とし、履修方法及び選考方法等については、別に定める。ただし、公衆衛生看護学実習を履修するためには、第2年次後期、第3年次前期及び第4年次前期に開講する保健師課程科目(公衆衛生看護学実習を除く。)をすべて修得済み、あるいは修得見込みであること。
  - 3 その他の科目についても、履修学生数等を定めることがある。

(単位の計算方法)

**第5条** 科目の単位数は、1単位45時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準とし、学習方法に応じ、次の基準により、計算するものとする。

- (1) 講義については、15時間をもって1単位とする。ただし、科目の内容によっては、30時間をもって1単位とすることができる。
- (2) 演習については、30時間をもって1単位とする。ただし、科目の内容によっては、15時間をもって1単位とすることができる。
- (3) 実習、実技及び実験については、45時間をもって1単位とする。ただし、科目の内容によっては、30時間をもって1単位とすることができる。

(卒業の要件)

**第6条** 看護学科を卒業するためには、4年（転入学生、再入学生については別に定める期間）以上在学し、必修科目と選択科目を併せて128単位以上を修得しなければならない。

(単位認定試験等の受験資格)

**第7条** 学生は、次の各号に該当しなければ、履修する科目の単位認定試験等を受験することはできない。

- (1) 履修する科目の出席時間が、当該科目の授業時間数の3分の2(実習科目にあつては5分の4)以上の者
- (2) 出席時間数が前号に達しない者のうち、担当教員が前号に達した者と同等の能力があると認めた者

(成績の評価)

**第8条** 成績の評価は、試験(定期試験、随時試験)の結果及び授業への取り組み状況等によって判定する。試験は、筆記、口述、レポート、実技等より行われる。成績の表示は100点を満点とし、次の基準により行う。

ただし、看護学実習科目の単位の認定については、別に実習要綱で定める。

100～80点	79～70点	69～60点	60点未満
優	良	可	不可

2 追試験は、定期試験の受験資格を有する者が、疾病その他のやむを得ない理由により定期試験を受けることができなかった場合に、願い出により行う。

ただし、追試験による評価は、前項により行うが、成績の表示は、試験点数の8割とし、次の基準により行う。

80点	79～70点	69～60点	60点未満
優	良	可	不可

3 前項の規定は、当該定期試験が開始されるまでに教育支援課に連絡した場合に適用する。なお、適用を受け追試験を受けようとする者は、所定の追試験受験申請書に医師の診断書その他理由を証する書類を添えて、診断書による療養期間終了後すみやかに学長に提出しなければならない。

4 再試験は、定期試験を受験し不合格となった者に対して、担当教員が認めた場合に限り、願い出により行うことがある。

ただし、再試験による成績の評価は、第1項により行うが、成績の表示は、次の基準により行う。

60点	60点未満
可	不可

5 前項の規定により再試験を受けようとする者は、所定の再試験受験申請書を指定された期日までに学長に提出しなければならない。

(単位の認定)

**第9条** 科目の単位認定は、成績の評価により、優、良及び可を「合格」、不可を「不合格」とし、合格者に対し所定の単位を与えるものとする。

2 単位の認定は、授業科目の担当教員から提出された成績資料に基づき、成績判定会議で審議を行う。

3 成績判定会議は、看護学科教授をもって組織する。

4 単位の認定は、看護学科長が医学部長に報告のうえ学長に報告し、学長が決定するものとし、その結果は、看護学科教授会議で報告するものとする。

(試験における不正行為)

**第10条** 試験において不正行為があったときは、当該科目の試験を無効とする。ただし、不正行為が悪質であると判断された場合は、学則第41条による懲戒処分を行う。

(雑則)

**第11条** この要領に定めるもののほか、科目の履修に関し必要な事項は別に定める。

**附 則**

この要領は、平成 16 年 4 月 1 日から施行する。

**附 則**

この要領は、平成 18 年 4 月 1 日から施行する。

**附 則**

この要領は、平成 19 年 4 月 1 日から施行する。

**附 則**

この要領は、平成 20 年 4 月 1 日から施行する。

**附 則**

この要領は、平成 22 年 4 月 1 日から施行する。

**附 則**

この要領は、平成 23 年 4 月 1 日から施行し、改正後の第 4 条第 3 項の規定は、平成 26 年度の履修学生（4 年次生）から適用する。

**附 則**

この要領は、平成 24 年 4 月 1 日から施行し、改正後の第 4 条第 2 項の規定は、平成 27 年度の履修学生（4 年次生）から適用する。

**附 則**

この要領は、平成 25 年 4 月 1 日から施行する。

**附 則**

この要領は、平成 26 年 4 月 1 日から施行する。

**附 則**

この要領は、平成 27 年 4 月 1 日から施行する。

**附 則**

この要領は、平成 28 年 4 月 1 日から施行する。

**附 則**

この要領は、平成 29 年 4 月 1 日から施行する。

**附 則**

この要領は、平成 30 年 4 月 1 日から施行する。

**附 則**

この要領は、平成 31 年 4 月 1 日から施行する。

**附 則**

この要領は、令和 2 年 4 月 1 日から施行する。

**附 則**

この要領は、令和 3 年 4 月 1 日から施行する。



別表 1 医学部看護学科の教育課程 (令和2年度以降入学生)

目的区分	授業科目の名称	単位数		時間数	配当年次								頁	卒業に必要な単位数	
		必修	選択		学年	1年前	1年後	2年前	2年後	3年前	3年後	4年前			4年後
人間・社会の理解	人間発達論	2 *		30	1	■								23	必修 14単位 選択 1単位以上
	医療に関わる倫理学 I	★ 2 *		30	1	■								25	
	臨床心理学	★ 2 *		30	1	■								27	
	教育実践論	★ 2 *		30	1	■								33	
	奈良学	★ 1 *		30	1	■								37	
	次世代医療人育成論	★ 1 *		30	1	■								38	
	カウンセリング論	1 *		30	2			■						85	
	社会福祉と医療法規	★ 2 *		30	1	■								39	
	保健医療福祉行政論 I	1 *		15	3				■					139	
	保健医療福祉行政論 II	●	2	30	3					□				140	
	哲学	★	2	30	1	□								41	
	医療に関わる倫理学 II	★	2	30	1	□								43	
	日本国憲法	※	2	30	1	□								45	
	家族社会学		1	15	2			□						87	
	国際情勢論		2	30	1	□								47	
異文化論	★	2	30	1	□								49		
国際理解	臨床英語 I	2 *		60	1	■								51	必修 8単位
	臨床英語 II	2 *		60	1	■								53	
	英語表現法 I	1 *		30	2			■						88	
	英語表現法 II	1 *		30	2				■					90	
	アジア文化論	★ 1 *		30	1	■								55	
	西洋文化論	★ 1 *		30	1	■								57	
生活・環境の理解	微生物学	2 *		30	2		■							92	必修 4単位 選択 1単位以上 (生物学または化学から選択)
	疫学		2	30	4						□			173	
	公衆衛生概論	1 *		15	3				■					142	
	保健統計学 I	1 *		15	3				■					143	
	保健統計学 II	●	1	15	3					□				144	
	生物学		1	15	1	□								59	
	化学		1	15	1	□								60	
情報科学	※	2	30	2			□						94		
健康の理解	健康科学	1 *		15	1	■	■							61	必修 23単位
	健康運動学	1 *		45	1	■	■							62	
	人体構造学	2 *		30	1	■								63	
	人体機能学	2 *		30	1	■								65	
	生化学	2 *		30	1		■							67	
	栄養学	2 *		30	1		■							69	
	病態医学 I	2 *		30	1	■	■							71	
	病態医学 II	4 *		60	1		■							73	
	病態医学 III	4 *		60	2			■						96	
	基礎薬理学	1 *		15	1	■								75	
	臨床薬理学	2 *		30	1		■							76	
看護学の基本	基礎看護学	看護学概論	1 *	15	1	■								78	必修 13単位
		看護倫理学	1 *	15	2				■					98	
		看護援助の基本	1 *	15	1	■								79	
		看護技術学 I	1 *	30	1	■	■							80	
		看護技術学 II	1 *	30	2			■						99	
		フィジカルアセスメント	1 *	30	1		■							81	
		健康障害と看護	1 *	15	2			■						100	
		ヘルスアセスメント	1 *	15	2			■						101	
		看護過程論	2 *	30	1		■							82	
		基礎看護学実習 I	1 *	45	1	■	■							83	
		基礎看護学実習 II	2 *	90	2			■	■					102	



目的区分	授業科目の名称	単位数		時間数	配当年次								頁	卒業に必要な単位数	
		必修	選択		学年	1年		2年		3年		4年			
						前	後	前	後	前	後	前			後
看護学の展開	成熟看護学	成人看護学概論	2 *		30	2		■						103	必修 42 単位
		成人看護学援助論 I	1 *		30	2		■						105	
		成人看護学援助論 II	1 *		30	2		■						107	
		成人看護学援助論 III	1 *		30	3			■					145	
		成人看護学援助論 IV	1 *		30	3			■					147	
		成人看護学実習 I	3		135	3				■				149	
		成人看護学実習 II	3		135	3				■				150	
	老年看護学	老年看護学概論	2 *		30	2		■						109	
		老年看護学援助論 I	1 *		30	2		■						111	
		老年看護学援助論 II	1 *		30	3			■					151	
		老年看護学実習	4		180	3				■				153	
	育成看護学	小児看護学概論	2 *		30	2		■						113	
		小児看護学援助論 I	1 *		30	2		■						115	
		小児看護学援助論 II	1 *		30	3			■					154	
		小児看護学実習	2		90	3				■				156	
		母性看護学概論	2 *		30	2		■						117	
		母性看護学援助論 I	1 *		30	2		■						119	
		母性看護学援助論 II	1 *		30	3			■					157	
	精神看護学	母性看護学実習	2		90	3				■				159	
		精神看護学概論	2 *		30	2		■						121	
		精神看護学援助論 I	1 *		30	2		■						123	
		精神看護学援助論 II	1 *		30	3			■					160	
	広域看護学	精神看護学実習	2		90	3				■				162	
		公衆衛生看護学概論	2 *		30	2		■						125	
		公衆衛生看護学活動論 I	2 *		30	2		■						127	
		公衆衛生看護学活動論 II	●	2	30	2		□						129	
		公衆衛生看護学活動論 III	●	1	15	2		□						131	
		公衆衛生看護学活動展開論		2	60	4					□			175	
公衆衛生看護学保健指導論 I			2	60	4					□			178		
公衆衛生看護学保健指導論 II			1	30	4					□			180		
産業保健活動論			1	15	4					□			182		
学校保健活動論			1	15	4					□			183		
公衆衛生看護管理論			2	30	4					□			184		
公衆衛生看護学実習 I			2	90	4					□	□		186		
公衆衛生看護学実習 II			3	135	4					□	□		187		
看護学の発展と探究	応用看護学	緩和ケア論	1 *		15	2		■						132	必修 22 単位
		看護管理論	1		15	4					■			188	
		リハビリテーション看護	1 *		15	2		■						134	
		家族看護学	2 *		30	3			■					163	
	統合看護学	在宅看護学概論	2 *		30	2		■						135	
		在宅看護学援助論	2 *		60	3			■					165	
		在宅看護学実習	2		90	3				■				167	
		看護研究特論	1		30	4					■			189	
		看護研究	2		60	4					■			190	
		ヘルスプロモーションと健康教育	2 *		30	3			■					168	
		統合実習	2		90	4					■			191	
		災害看護論	1		15	4					■			193	
		チーム医療論	1		30	4					■			194	
		医療安全	1 *		15	3			■					170	
		国際看護論 I	1		30	4					■			196	
国際看護論 II		1	30	4					□	□		-			
合計		126	38			開講時期を ■ または □ で表示。(■は必修、□は選択)								128 単位以上 必修 126 単位 選択 2 単位	

卒業に必要な単位数 128 単位（認定単位を含む）

(注)

- ・太枠内の科目は、保健師国家試験受験資格を取得するために必要な選択科目を示す（22単位）。  
なお、上記の科目履修を希望する者は、あらかじめ2年または3年次開講の保健医療福祉行政論Ⅱ、保健統計学Ⅱ、公衆衛生看護学活動論Ⅱ・Ⅲ（授業科目の名称欄の●印、計6単位）を修得しておかなければならない。  
したがって、保健師国家試験受験資格を取得の上、卒業するために必要な単位数は150単位となる。
- ・単位数右側の\*印は、看護学科授業科目履修要領第4条第1項第2号に規定する修得必要科目を示す。
- ・授業科目の名称の欄の★印は、医学看護学合同教育科目であることを示す。
- ・授業科目の名称の欄の※印は、保健師免許を取得後、養護教諭免許を申請予定の者は履修する必要のある選択科目を示す。

別表2 医学部看護学科の教育課程 (平成29年～31年度入学生)

目的区分	授業科目の名称	単位数		時間数	配当年次								頁	卒業に必要な単位数	
		必修	選択		学年	1年前	1年後	2年前	2年後	3年前	3年後	4年前			4年後
人間・社会の理解	人間発達論	2*		30	1	■								23	必修 14単位 選択 1単位以上
	医療に関わる倫理学Ⅰ	★2*		30	1	■								25	
	臨床心理学	★2*		30	1	■	■							27	
	教育実践論	★2*		30	1	■								33	
	奈良学	★1*		30	1	■	■							37	
	次世代医療人育成論	★1*		30	1	■								38	
	カウンセリング論	1*		30	2			■						85	
	社会福祉と医療法規	★2*		30	1	■								39	
	保健医療福祉行政論Ⅰ	1*		15	3					■				139	
	保健医療福祉行政論Ⅱ	●	2	30	3					□				140	
	哲学	★	2	30	1	□								41	
	医療に関わる倫理学Ⅱ	★	2	30	1	□								43	
	日本国憲法	※	2	30	1	□								45	
	家族社会学		1	15	3			□						87	
	国際情勢論		2	30	1	□								47	
異文化論	★	2	30	1	□								49		
国際理解	臨床英語Ⅰ	2*		60	1	■							51	必修 8単位	
	臨床英語Ⅱ	2*		60	1	■	■						53		
	英語表現法Ⅰ	1*		30	2			■					88		
	英語表現法Ⅱ	1*		30	2				■				90		
	アジア文化論	★1*		30	1	■							55		
	西洋文化論	★1*		30	1	■							57		
生活・環境の理解	微生物学	2*		30	2			■					92	必修 4単位 選択 1単位以上 (生物学または化学から選択)	
	疫学		2	30	4						□		173		
	公衆衛生概論	1*		15	3					■			142		
	保健統計学Ⅰ	1*		15	3					■			143		
	保健統計学Ⅱ	●	1	15	3					□			144		
	生物学		1	15	1	□							59		
	化学		1	15	1	□							60		
情報科学	※	2	30	2			□					94			
健康の理解	健康科学	1*		15	1	■	■						61	必修 23単位	
	健康運動学	1*		45	1	■	■						62		
	人体構造学	2*		30	1	■							63		
	人体機能学	2*		30	1	■							65		
	生化学	2*		30	1		■						67		
	栄養学	2*		30	1		■						69		
	病態医学Ⅰ	2*		30	1	■	■						71		
	病態医学Ⅱ	4*		60	1		■						73		
	病態医学Ⅲ	4*		60	2			■					96		
	基礎薬理学	1*		15	1	■							75		
臨床薬理学	2*		30	1		■						76			
看護学の基本	看護学概論	1*		15	1	■							78	必修 13単位	
	看護倫理学	1*		15	2				■				98		
	看護援助の基本	1*		15	1	■							79		
	看護技術学Ⅰ	1*		30	1		■						80		
	看護技術学Ⅱ	1*		30	2			■					99		
	フィジカルアセスメント	1*		30	1		■						81		
	健康障害と看護	1*		15	2			■					100		
	ヘルスアセスメント	1*		15	2				■				101		
	看護過程論	2*		30	1		■						82		
	基礎看護学実習Ⅰ	1*		45	1	■	■						83		
	基礎看護学実習Ⅱ	2*		90	2			■	■				102		

目的区分	授業科目の名称	単位数		時間数	配当年次								頁	卒業に必要な単位数	
		必修	選択		学年	1年		2年		3年		4年			
						前	後	前	後	前	後	前			後
看護学の展開	成熟看護学	成人看護学概論	2*		30	2		■						103	必修 42 単位
		成人看護学援助論 I	1*		30	2			■					105	
		成人看護学援助論 II	1*		30	2			■					107	
		成人看護学援助論 III	1*		30	3				■				145	
		成人看護学援助論 IV	1*		30	3				■				147	
		成人看護学実習 I	3		135	3					■			149	
		成人看護学実習 II	3		135	3					■			150	
	老年看護学	老年看護学概論	2*		30	2		■						109	
		老年看護学援助論 I	1*		30	2			■					111	
		老年看護学援助論 II	1*		30	3				■				151	
		老年看護学実習	4		180	3					■			153	
	育成看護学	小児看護学概論	2*		30	2		■						113	
		小児看護学援助論 I	1*		30	2			■					115	
		小児看護学援助論 II	1*		30	3				■				154	
		小児看護学実習	2		90	3					■			156	
		母性看護学概論	2*		30	2		■						117	
		母性看護学援助論 I	1*		30	2			■					119	
		母性看護学援助論 II	1*		30	3				■				157	
	母性看護学実習	2		90	3					■			159		
	精神看護学	精神看護学概論	2*		30	2		■						121	
		精神看護学援助論 I	1*		30	2			■					123	
		精神看護学援助論 II	1*		30	3				■				160	
		精神看護学実習	2		90	3					■			162	
	広域看護学	公衆衛生看護学概論	2*		30	2		■						125	
		公衆衛生看護学活動論 I	2*		30	2			■					127	
		公衆衛生看護学活動論 II	●	2	30	2				□				129	
		公衆衛生看護学活動論 III	●	1	15	2				□				131	
		公衆衛生看護学活動展開論		2	60	4						□		175	
公衆衛生看護学保健指導論 I			2	60	4						□		178		
公衆衛生看護学保健指導論 II			1	30	4						□		180		
産業保健活動論			1	15	4						□		182		
学校保健活動論			1	15	4						□		183		
公衆衛生看護管理論			2	30	4						□		184		
公衆衛生看護学実習 I			2	90	4						□	□	186		
公衆衛生看護学実習 II		3	135	4						□	□	187			
看護学の発展と探究	応用看護学	緩和ケア論	1*		15	2			■					132	必修 22 単位
		看護管理論	1		15	4						■		188	
		リハビリテーション看護	1*		15	2			■					134	
		家族看護学	2*		30	3				■				163	
	統合看護学	在宅看護学概論	2*		30	2			■					135	
		在宅看護学援助論	2*		60	3				■				165	
		在宅看護学実習	2		90	3					■			167	
		看護研究特論	1		30	4						■		189	
		看護研究	2		60	4						■		190	
		ヘルスプロモーションと健康教育	2*		30	3				■				168	
		統合実習	2		90	4						■		191	
		災害看護論	1		15	4						■		193	
		チーム医療論	1		30	4						■		194	
		医療安全	1*		15	3				■				170	
国際看護論 I	1		30	4						■		196			
国際看護論 II		1	30	4						□	□	-			
合計		126	38			開講時期を■または□で表示。(■は必修、□は選択)								128 単位以上 必修 126 単位 選択 2 単位	

卒業に必要な単位数 128 単位 (認定単位を含む)

(注)

- ・太枠内の科目は、保健師国家試験受験資格を取得するために必要な選択科目を示す (22 単位)。  
 なお、上記の科目履修を希望する者は、あらかじめ 2 年または 3 年次開講の保健医療福祉行政論 II、保健統計学 II、公衆衛生看護学活動論 II・III (授業科目の名称欄の●印、計 6 単位) を修得しておかなければならない。  
 したがって、保健師国家試験受験資格を取得の上、卒業するために必要な単位数は 150 単位となる。
- ・単位数右側の\*印は、看護学科授業科目履修要領第 4 条第 1 項第 2 号に規定する修得必要科目を示す。
- ・授業科目の名称の欄の★印は、医学看護学合同教育科目であることを示す。
- ・授業科目の名称の欄の※印は、保健師免許を取得後、養護教諭免許を申請予定の者は履修する必要がある選択科目を示す。

## 保健師課程のアドミッションポリシー及び履修要領

### 保健師課程アドミッションポリシー

1. 保健師として働きたいという気持ちを強く持っている人
2. 奈良県の保健活動に貢献する意思を有し、へき地の保健活動に強い関心を持っている人
3. 保健師として求められる対人関係能力とコミュニケーション能力を有する人
4. 単独実習及びへき地実習が可能な自律性を持っている人

### 奈良県立医科大学医学部看護学科授業科目履修要領

#### 第4条第2項の選考方法等に関する要領（抜粋）

（趣旨）

第1条 この要領は、奈良県立医科大学医学部看護学科授業科目履修要領（平成16年4月1日施行）第4条第2項に基づき、保健師国家試験受験資格の取得に必要な科目のうち公衆衛生看護学に係る選択科目（以下「保健師科目」という。）の履修方法及び選択できる学生の選考方法について、必要な事項を定めるものとする。

（保健師科目の定義）

第2条 保健師科目の名称及び単位数、時間数は別表1のとおりとする。

（履修の制限等）

第3条 第2条に定める保健師科目のうち、第4年次に開講する科目を履修しようとする者は、第3年次後期までに開講される卒業に必要な必修科目、選択科目の単位をすべて修得していなければならない。

- 2 第2条に定める公衆衛生看護学実習5単位を履修するためには、平成29年度以降の入学生は第2年次後期、第3年次前期及び第4年次前期に開講する保健師科目（公衆衛生看護学実習を除く。）をすべて修得済み、あるいは修得見込みであること。

（履修許可人数）

第4条 保健師科目の履修を許可する人数は20人以内とする。

（選考の時期等）

第5条 第2条の科目履修者の選考は別表2-1及び別表2-2の選考方法により、第3年次後期の看護学臨地実習終了後に行うものとする。

（履修志願手続き）

第6条 第2条の科目を履修しようとする者（以下「志願者」という。）は、所定の期日までに学長に申請するものとする。

附 則

この要領は、平成25年4月1日から施行する。

附 則

この要領は、平成27年4月1日から施行する。

附 則

この要領は、平成28年4月1日から施行する。

附 則

この要領は、平成29年4月1日から施行する。

附 則

この要領は、平成 30 年 4 月 1 日から施行する。

附 則

この要領は、令和 2 年 4 月 1 日から施行する。

附 則

この要領は、令和 3 年 4 月 1 日から施行する。

別表 1 平成 29 年度以降入学生の保健師科目及び単位数

科 目	年次	単 位
公衆衛生看護学活動論Ⅱ *	2	2
公衆衛生看護学活動論Ⅲ *	2	1
保健医療福祉行政論Ⅱ *	3	2
保健統計学Ⅱ *	3	1
疫学	4	2
公衆衛生看護学活動展開論	4	2
公衆衛生看護学保健指導論Ⅰ	4	2
公衆衛生看護学保健指導論Ⅱ	4	1
公衆衛生看護管理論	4	2
産業保健活動論	4	1
学校保健活動論	4	1
公衆衛生看護学実習Ⅰ	4	2
公衆衛生看護学実習Ⅱ	4	3
	合計	22

\*・・・3 年次末の選抜試験を受け保健師課程の履修を希望する者は、保健師課程選考前に  
\*印がある科目を履修しなければならない。

別表 2-1 平成 29 年度入学生の選考方法

選考方法	内 容
学力評価	以下を学力評価の対象科目とする。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 1 年次から 3 年次に履修する実習を除く全ての必修科目</li> <li>・ 保健師選択科目：「公衆衛生看護学活動論Ⅱ、Ⅲ」「保健統計学Ⅱ」「保健医療福祉行政論Ⅱ」</li> </ul>
試験	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 面接試験（個別）</li> </ul> 看護学実習評価を面接試験の参考資料とする。
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 学力評価を 80 点、面接試験を 20 点、合計 100 点で評価し成績上位者から選考する。</li> </ul>

別表 2-2 平成 30 年度以降入学生の選考方法

選考方法	内 容
成績評価	以下を成績評価の対象科目とする。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 1 年次から 3 年次に履修する実習を除く全ての必修科目</li> <li>・ 保健師選択科目：「公衆衛生看護学活動論Ⅱ、Ⅲ」「保健統計学Ⅱ」「保健医療福祉行政論Ⅱ」</li> </ul>
実習評価	以下を実習評価の対象科目とする <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 1 年次から 3 年次に履修する全ての看護学実習</li> </ul> 基礎看護学実習Ⅰ・Ⅱ、成人看護学実習Ⅰ・Ⅱ、老年看護学実習、小児看護学実習、母性看護学実習、精神看護学実習、在宅看護学実習
面接試験	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 面接試験（個別）</li> </ul>
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 成績評価を 60 点、実習評価を 20 点、面接試験を 20 点、合計 100 点とし、合計得点の上位者から選考する。</li> </ul>

## 卒業に必要な単位数

(平成 29 年度以降入学生)

区 分	開設単位数	卒業に必要な単位数		
		必修科目	選択科目	計
人間・社会の理解 (保健師課程)	2 5 (2 7)	1 4 (1 4)	1 (3)	1 5 (1 7)
国際理解	8	8	0	8
生活・環境の理解 (保健師課程)	8 (1 1)	4 (4)	1 (4)	5 (8)
健康の理解	2 3	2 3	0	2 3
看護学の基本	1 3	1 3	0	1 3
看護学の展開 (保健師課程)	4 2 (5 9)	4 2 (4 2)	0 (1 7)	4 2 (5 9)
看護学の発展と探究	2 3	2 2	0	2 2
合計 (保健師課程)	1 4 2 (1 6 4)	1 2 6 (1 2 6)	2 (2 4)	1 2 8 (1 5 0)

( ) 内の数字は保健師国家試験受験資格取得の場合

(注) 保健師国家試験受験資格取得希望者は、疫学、公衆衛生看護学活動展開論、公衆衛生看護学保健指導論Ⅰ、公衆衛生看護学保健指導論Ⅱ、産業保健活動論、学校保健活動論、公衆衛生看護管理論、公衆衛生看護学実習Ⅰ、公衆衛生看護学実習Ⅱを履修することとし、その履修 16 単位のうち、疫学の 2 単位は「生活・環境の理解」、その他の 14 単位は「看護学の展開」の選択科目として取り扱う。

なお、上記の各科目を履修するためには、2 年または 3 年次開講の保健医療福祉行政論Ⅱ、保健統計学Ⅱ、公衆衛生看護学活動論Ⅱ・Ⅲ (計 6 単位) を修得しておかなければならない。したがって、保健師国家試験受験資格を取得の上、卒業するために必要な単位数は 150 単位となる。





## 4. 2年次開講科目の授業内容

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2年	1	必修
担当教員			
田中 佐和子／中川 晶			
添付ファイル			

目的	看護を実践する中では、相手を受容し共感しながら、援助的な人間関係を形成することが望まれる。この授業では、看護に必要な心理的援助のあり方について、カウンセリングの理論と技法を通し習得することを目的とする。		
目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・人間の心について関心を持ち、理解しようとする姿勢を身につける。</li> <li>・カウンセリングについての理論と技法を理解し、基本的態度を体験的に学ぶ。</li> <li>・事例より、実際の心理的援助のあり方を検討する。</li> </ul>		
授業計画	授業内容	授業形態	担当者
第1回	2020年9月18日（金） 現代社会とカウンセリング	講義	田中
第2回	2020年9月25日（金） カウンセリングの視点（1）技法	講義・演習	田中
第3回	2020年10月3日（土） カウンセリングの視点（2）発達	講義	田中
第4回	2020年10月16日（金） 援助的コミュニケーションの技法(1) 関わることとは	講義・演習	田中
第5回	2020年10月23日（金） 援助的コミュニケーションの技法(2) 聴くこととは	講義・演習	田中
第6回	2020年10月30日（金） ストレス・マネジメント／レジリエンス	講義・演習	田中
第7回	2020年11月7日（土） 心理アセスメント(1) 事例研究	講義・演習	田中
第8回	2020年11月13日（金） 心理アセスメント(2) 事例研究	講義・演習	田中
第9回	2020年11月20日（金） 心理アセスメント(3) 事例研究	講義・演習	田中
第10回	2020年11月27日（金） 箱庭療法ほか 事例を通して DVD視聴	講義・演習	田中
第11回	2020年12月4日（金） トラウマとPTSD	講義・演習	田中
第12回	2020年12月11日（金） 看護に活かすカウンセリング：アサーション・トレーニング①	講義・演習	田中
第13回	2020年12月18日（金） 看護に活かすカウンセリング：アサーション・トレーニング②	講義・演習	田中
第14回	2020年12月25日（金）  臨床心理学的地域援助・事例研究	講義	田中
第15回	2021年1月13日（水）  ストレスの正体	講義	中川
授業外学修（事前学修・事後学修）	事前学習：各回の講義テーマについて、資料の中から関心のある項目について自分の考えをまとめておく。 事後学習：講義内容の中から、自分が関心を持った項目について、どのように理解したか、活用していくにはどうしたら良いかについて洞察を深める。		

評価方法・評価基準	評価方法：講義内で実施する小レポート（50％）、期末レポート（50％） 評価基準：小レポートは、各講義テーマについて理解し、自分なりの視点で意見が述べられているか。期末レポートは、カウンセリングの視点から、事例を通して自分の考え、関わり方、援助の仕方について考察しているか。
テキスト	授業中に適宜配布。
参考図書	管佐和子編著「医療現場に活かす臨床心理学」 朱鷺書房 玉瀬耕治著「カウンセリングの技法を学ぶ」有斐閣 窪田由紀・森田美也子・氏家達夫監修 河野莊子・金子一史・清川幸子編著「こころの危機への心理学的アプローチ」金剛出版 平木典子編著「ナースのためのアサーション」 金子書房
学生へのメッセージ等	自己他者理解・自己表現を促すためにも積極的な参加が求められる。 こころの支援について、個人・コミュニティ・社会といった多様な視点から考えていきましょう。

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2年	1	選択
担当教員			
堀 あきこ			
添付ファイル			

目的	私たちにあって当たり前のような存在である「家族」。その家族について、改めて学ぶことに一体どのような意義があるのだろうかと思われられるかも知れません。しかし、家族について学ぶことは、皆さんの将来を展望するうえで大きな意味を持つことになるでしょう。なぜなら家族は介護や看護、子育てと深く関わっているだけでなく、労働や貧困など、様々な社会的問題ともつながっているからです。この授業では、「家族」とはいったい何であるのかを問い直します。そして、家族を軸に、戦後の社会構造の変容や日本社会がはらみもつ諸問題を学び、「家族」を客観的に考えることから、他者とのつながりや社会のあり方を検討していきます。		
目標	①家族に関する基本的概念を、基礎的なデータや文献から理解できること。 ②現代社会における家族を取り巻く諸問題について、データから考察できること。 ③問題解決に取り組むための基礎知識を学び、自らの意見を記述できること。		
授業計画	授業内容	授業形態	担当者
第1回	2020年4月8日（水） 「家族」とは何か 家制度、近代家族の成立（ガイダンスを含みます）	講義	堀
第2回	2020年4月15日（水） 家族と少子高齢化社会 人口動態変化、少子高齢化にともなう諸問題について	講義	堀
第3回	2020年4月22日（水） 家族と労働 性別役割分業、長時間労働、非正規雇用について	講義	堀
第4回	2020年4月29日（水） 家族と結婚 結婚の変化、晩婚化・未婚化、同性婚、LGBTQについて	講義	堀
第5回	2020年5月13日（水） 家族とケア 家事労働、育児、介護について	講義	堀
第6回	2020年5月20日（水） 家族と暴力 親子間暴力、DV（ドメスティック・バイオレンス）について	講義	堀
第7回	2020年5月27日（水） 家族と福祉 社会保障、生活保護、貧困について	講義	堀
第8回	2020年6月3日（水） 家族の多様性 もう一度、「家族」の範囲を考える	講義	堀
授業外学修（事前学修・事後学修）	事前学修：授業中に提示するキーワードについて、次の授業までに適切なデータを用いて調べ、まとめておく。 事後学修：事前学修の内容と授業の説明を照らし合わせ、授業のテーマとともに確認しておく。		
評価方法・評価基準	評価方法：授業参加度と各授業の課題（50%）、期末レポート（50%） 評価基準：各授業の課題は、提示したキーワードについて、適切なデータを用いて調べられているか（事前学修）。期末レポートは、自分の問題意識を客観的なデータや理論を用い、整理して論じられているか。		
テキスト	使用しない。授業中にプリントを配布する。		
参考図書	岩間暁子・大和礼子・田間泰子著（2015）『問いからはじめる家族社会学—多様化する家族の包摂に向けて』有斐閣。神原文子・竹田美知・杉井潤子編著（2016）『よくわかる現代家族 [第2版]』ミネルヴァ書房。他の文献は授業中に随時紹介する。		
学生へのメッセージ等	授業中に提示するキーワードについて、次の授業まで調べておくこと（事前学修）。		

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2年	1	必修
担当教員			
Bolstad Francesco/Mathieson Paul/Blodgett Michael/北澤 良子			
添付ファイル			

目的	この授業は英語の流暢さと4つの英語運用能力 (reading, writing, speaking, and listening)の育成を目的とする。さらに、看護と医療に関する様々なトピックを英語で学習することで、語学力、知識、語彙、批判的思考力を高める。		
目標	前期に以下のことを習得する： 1. 看護と医療に関する様々なトピックについて、英語で流暢に書き、読み、議論する 2. 関連する看護・医療の英語の語彙を理解し、使用する 3. 看護・医療のトピックに関連した様々な英語の文章を読解し、議論する 4. 日本で暮らしている外国人にとって重要な公衆衛生について英語で議論し文章作成する。		
授業計画	授業内容	授業形態	担当者
	9:00 am - 12:00 pm, Saturday, 10 April OR Sunday, 11 April TOEFL Test (at NMU)	Test	Bolstad Mathieson Blodgett
	第1週 9:00 am - 10:30 am & 10:40 am - 12:10 pm, Tuesday, 13 April Orientation	講義・演習	Bolstad Mathieson Blodgett 北澤
	第2週 9:00 am - 10:30 am & 10:40 am - 12:10 pm, Tuesday, 20 April UNIT 1A Why Do Nurses Need English?	講義・演習	〃
	第3週 9:00 am - 10:30 am & 10:40 am - 12:10 pm, Tuesday, 27 April UNIT 1B Why Do Nurses Need English? II	講義・演習	〃
	第4週 9:00 am - 10:30 am & 10:40 am - 12:10 pm, Tuesday, 11 May UNIT 2A Sleep	講義・演習	〃
	第5週 9:00 am - 10:30 am & 10:40 am - 12:10 pm, Tuesday, 18 May UNIT 2B Sleep II	講義・演習	〃
	第6週 9:00 am - 10:30 am & 10:40 am - 12:10 pm, Tuesday, 25 May UNIT 3A Stress	講義・演習	〃
	選択 8:30 am - 5:30 pm, Saturday, 29 May or Sunday, 30 May Special Advanced English Lectures (Optional)	講義・演習	Bolstad Mathieson Blodgett
	第7週 9:00 am - 10:30 am & 10:40 am - 12:10 pm, Tuesday, 1 June UNIT 3B Stress II	講義・演習	Bolstad Mathieson Blodgett 北澤
	第8週 9:00 am - 10:30 am & 10:40 am - 12:10 pm, Tuesday, 8 June UNIT 4A Nutrition	講義・演習	〃

	第9週 9:00 am - 10:30 am & 10:40 am - 12:10 pm, Tuesday, 15 June UNIT 4B Nutrition II	講義・演習	〃
	第10週 9:00 am - 10:30 am & 10:40 am - 12:10 pm, Tuesday, 22 June UNIT 5A Hygiene	講義・演習	〃
	第11週 9:00 am - 10:30 am & 10:40 am - 12:10 pm, Tuesday, 29 June UNIT 5B Hygiene II	講義・演習	〃
	第12週 9:00 am - 10:30 am & 10:40 am - 12:10 pm, Tuesday, 6 July SPECIAL UNIT Public Health Group Project - Presentations	講義・演習	〃
	第13週 9:00 am - 10:30 am & 10:40 am - 12:10 pm, Tuesday, 13 July REVIEW Units 1 - 5 [ *Public Health Group Project Review Paper 提出日]	講義・演習	〃
	第14週 9:00 am - 10:30 am & 10:40 am - 12:10 pm, Tuesday, 20 July EXAM	試験	〃
授業外学修（事前学修・事後学修）			
評価方法・評価基準	<p>出席、授業課題、宿題：</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・出席：すべての授業に出席することが望ましいが、2回まではペナルティなしで欠席が許される。それ以上の欠席は、最終成績から5%のペナルティを課すこととする。（例：3回欠席＝ - 5%、4回欠席＝ - 10%、5回欠席＝ - 15% etc.）。</li> <li>・授業内への取り組み：出席と授業への参加は最終成績の一部になります。授業中居眠りをしたり、授業内での活動に積極的に参加しない学生にはペナルティが課されます。</li> <li>・授業課題と宿題：授業を欠席した場合、その時に自分が逃した課題（授業課題、宿題etc.）が何だったかは、自己責任で確認して下さい。授業を欠席した場合でも、出された宿題をすることが求められます。</li> </ul> <p>評価：</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・宿題と授業への参加 = 10%</li> <li>・speakingの流暢さの最終評価 = 合否判定※ ※単位取得の為の合格基準は流暢に5分間英語で会話できること。</li> <li>・readingの流暢さ = 合否判定※ ※単位取得の為の合格基準は最後のreadingの流暢小テストで60%正解すること。</li> <li>・writingの流暢さ = 10%</li> <li>・毎週実施する看護・医療に関する語彙の小テスト = 10%※ ※単位取得の為には最後の復習クイズで60%正解すること。</li> <li>・ビデオの小テスト = 10%</li> <li>・公衆衛生のグループプロジェクト = 20%</li> <li>・期末試験 = 40%</li> </ul>		
テキスト	Murphy, R. (2010). Intermediate Grammar in Use. Cambridge University Press. ISBN-10: 0521189063 ISBN-13: 978-0521189064		
参考図書	英和/和英辞典を授業に持参することを強く勧める。		
学生へのメッセージ等	この授業の大部分は授業への参加に基づいているため、全ての授業に出席し、授業内の活動には積極的に参加することを勧める。また、英語の語彙や文法が期末試験の範囲に含まれるため、初めから良い学習習慣を維持する必要がある。		
	<input type="checkbox"/> Mathieson先生の オフィス・アワー → 木曜日, 14:00 - 16:00		

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2年	1	必修
担当教員			
Bolstad Francesco/Mathieson Paul/Blodgett Michael/北澤 良子			
添付ファイル			

目的	この授業は英語の流暢さと4つの英語運用能力 (reading, writing, speaking, and listening)の育成を目的とする。さらに、看護と医療に関する様々なトピックを英語で学習することで、語学力、知識、語彙、批判的思考力を高める。		
目標	前期に以下のことを習得する： 1. 看護と医療に関する様々なトピックについて、英語で流暢に書き、読み、議論する 2. 関連する看護・医療の英語の語彙を理解し、使用する 3. 看護・医療のトピックに関連した様々な英語の文章を読解し、議論する 4. 異文化理解に関するポスタープレゼンテーション、議論及び文章作成を英語で行う。		
授業計画	授業内容	授業形態	担当者
	第1週  9:00 am - 10:30 am & 10:40 am - 12:10 pm, Tuesday, 21 September Orientation	講義・演習	Bolstad Mathieson Blodgett 北澤
	第2週  9:00 am - 10:30 am & 10:40 am - 12:10 pm, Tuesday, 28 September UNIT 6A Health & Happiness	講義・演習	〃
	第3週  9:00 am - 10:30 am & 10:40 am - 12:10 pm, Tuesday, 5 October UNIT 6B Health & Happiness II	講義・演習	〃
	選択  10:00 am - 7:00 pm, Saturday, 9 October & 6:00 am - 4:00 pm, & Sunday, 10 October First Aid or Advanced Intensive English Course (Optional)	講義・演習	Bolstad Mathieson Blodgett
	第4週  9:00 am - 10:30 am & 10:40 am - 12:10 pm, Tuesday, 12 October SPECIAL UNIT Nursing & Intercultural Understanding	講義・演習	Bolstad Mathieson Blodgett 北澤
	第5週  9:00 am - 10:30 am & 10:40 am - 12:10 pm, Tuesday, 19 October UNIT 7A Pain	講義・演習	〃
	第6週  9:00 am - 10:30 am & 10:40 am - 12:10 pm, Tuesday, 26 October UNIT 7B Pain II	講義・演習	〃
	第7週  9:00 am - 10:30 am & 10:40 am - 12:10 pm, Tuesday, 2 November UNIT 8A Mental Health	講義・演習	〃
	第8週  9:00 am - 10:30 am & 10:40 am - 12:10 pm, Tuesday, 9 November UNIT 8B	講義・演習	〃

	Mental Health II		
	第9週 9:00 am - 10:30 am & 10:40 am - 12:10 pm, Tuesday, 16 November UNIT 9A Ageing	講義・演習	〃
	第10週 9:00 am - 10:30 am & 10:40 am - 12:10 pm, Tuesday, 30 November UNIT 9B Ageing II	講義・演習	〃
	第11週 9:00 am - 10:30 am & 10:40 am - 12:10 pm, Tuesday, 7 December UNIT 10A Death & Dying	講義・演習	〃
	第12週 9:00 am - 10:30 am & 10:40 am - 12:10 pm, Tuesday, 14 December UNIT 10B Death & Dying II	講義・演習	〃
	第13週 9:00 am - 10:30 am & 10:40 am - 12:10 pm, Tuesday, 21 December SPECIAL UNIT Nursing & Intercultural Understanding - Poster Presentations	講義・演習	〃
	第14週 9:00 am - 10:30 am & 10:40 am - 12:10 pm, Tuesday, 4 January REVIEW [ * Intercultural Understanding Review Paper 提出日 ]	講義・演習	〃
	第15週 9:00 am - 10:30 am & 10:40 am - 12:10 pm, Tuesday, 11 January EXAM	講義・演習	〃
授業外学修 (事前学修・事後学修)			
評価方法・評価基準	<p>出席、授業課題、宿題：</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・出席：すべての授業に出席することが望ましいが、2回まではペナルティなしで欠席が許される。それ以上の欠席は、最終成績から5%のペナルティを課すこととする (例：3回欠席 = - 5%、4回欠席 = - 10%、5回欠席 = - 15% etc.)。</li> <li>・授業内への取り組み：出席と授業への参加は最終成績の一部になります。授業中居眠りをしたり、授業内での活動に積極的に参加しない学生にはペナルティが課されます。</li> <li>・授業課題と宿題：授業を欠席した場合、その時に自分が逃した課題 (授業課題、宿題 etc.) が何だったかは、自己責任で確認して下さい。授業を欠席した場合でも、出された宿題をすることが求められます。</li> </ul> <p>評価：</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・宿題と授業への参加 = 10%</li> <li>・speakingの流暢さの最終評価 = 合否判定※ ※単位取得の為に合格基準は流暢に5分間英語で会話できること。</li> <li>・readingの流暢さ = 合否判定※ ※単位取得の為に合格基準は最後のreadingの流暢小テストで60%正解すること。</li> <li>・writingの流暢さ = 10%</li> <li>・毎週実施する看護・医療に関する語彙の小テスト = 10%※ ※単位取得の為に最後の復習クイズで60%正解すること。</li> <li>・ビデオの小テスト = 10%</li> <li>・異文化理解へのグループプロジェクト = 20%</li> <li>・期末試験 = 40%</li> </ul>		
テキスト	Murphy, R. (2010). Intermediate Grammar in Use. Cambridge University Press. ISBN-10: 0521189063 ISBN-13: 978-0521189064		
参考図書	英和/和英辞典を授業に持参することを強く勧める。		
学生へのメッセージ等	<p>この授業の大部分は授業への参加に基づいているため、全ての授業に出席し、授業内の活動には積極的に参加することを勧める。また、英語の語彙や文法が期末試験の範囲に含まれるため、初めから良い学習習慣を維持する必要がある。</p> <p><input type="checkbox"/> Mathieson先生の オフィス・アワー → 木曜日, 14:00 - 16:00</p>		



開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2年	2	必修
担当教員			
矢野 寿一／中野 竜一／中野 章代／鈴木 由希			
添付ファイル			

目的	感染症の原因となる病原微生物の基礎的知識を習得し、適切な感染防御策をとることができる。		
目標	1) 微生物についての基礎的知識を学ぶ 2) 滅菌と消毒の概念と手段を学び、新型コロナウイルスを含めた感染予防策を理解する 3) 病院で行われる微生物検査法を理解する		
授業計画	授業内容	授業形態	担当者
	1回目 2021年4月13日(火) 4限目 微生物学の歴史と感染症	講義	矢野
	2回目 2021年4月20日(火) 4限目 総論：微生物とは、形態、機能、代謝	講義	中野章代
	3回目 2021年4月27日(火) 4限目 院内感染対策1：標準予防策と个人防护具	講義	鈴木
	4回目 2021年5月10日(月) 2限目 院内感染対策2：感染経路別予防策と職業感染対策	講義	鈴木
	5回目 2021年5月17日(月) 4限目 微生物検査1	講義	矢野
	6回目 2021年5月26日(水) 1限目 微生物検査2	講義	矢野
	7回目 2021年6月4日(金) 3限目 滅菌と消毒	講義	鈴木
	8回目 2021年6月16日(水) 4限目 細菌学各論1：グラム陽性菌	講義	中野竜一
	9回目 2021年6月18日(金) 3限目 細菌学各論2：グラム陰性菌	講義	中野竜一
	10回目 2021年6月22日(火) 3限目 抗菌化学療法	講義	鈴木
	11回目 2021年6月23日(水) 4限目 薬剤耐性菌1：グラム陽性菌	講義	中野竜一
	12回目 2021年6月29日(火) 3限目 薬剤耐性菌2：グラム陰性菌	講義	中野竜一
	13回目 2021年7月6日(火) 3限目 ウイルス総論、各論	講義	中野竜一
	14回目 2021年7月16日(金) 3限目 乳酸菌などその他の細菌	講義	中野章代
	15回目 2021年7月20日(火) 4限目 まとめ	講義	矢野
授業外学修(事前学修・事後学修)			
評価方法・評価基準	評価方法：筆記試験80点、レポート20点、合計100点のうち、60点以上を合格とする。 評価基準：レポートは講義で学習した微生物(細菌、ウイルス)から一つ選び、まとめるものであるが、教科書を写すだけでなく、講義で学んだ内容が整理され記載されているかを重要視する。		

テキスト	感染制御の基本がわかる『微生物学・免疫学』羊土社
参考図書	『統計看護学講座 専門基礎6 微生物学』医学書院 『微生物学・感染看護学』医歯薬出版
学生へのメッセージ等	Infection Control Nurse（感染管理認定看護師）を目指しませんか？

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2年	2	選択
担当教員			
浅野 弘明			
添付ファイル			

目的	情報機器、特に、パソコンの使いこなしは、学生や一般社会人にとって必須の課題となっている。使いこなす上で必要となる知識と操作方法を、実習を通じ学習し、より有効かつ効率的な利用を可能とする。		
目標	機器やネットに関する基礎知識を理解するとともに、代表的なアプリケーションソフト、ワープロ、表計算、プレゼンテーションを中心に、機能や使い方を習得し、使いこなしのレベル向上を目指す。		
授業計画	授業内容	授業形態	担当者
	第1回  授業の進め方、機器構成・基本用語の説明 各種アプリケーションソフトの基本機能	実習	浅野
	第2回  ワードの使い方1、エクセルの使い方1、 パワーポイント(PP)の使い方1	実習	浅野
	第3回  ワードの使い方2、エクセルの使い方2、PPの使い方2	実習	浅野
	第4回  情報セキュリティについて (USBメモリの取り扱い方) ワードの使い方3、エクセルの使い方3、PPの使い方3	実習	浅野
	第5回  ネット検索1、ファイル・フォルダーの基礎 ワードの使い方4、エクセルの使い方4、PPの使い方4	実習	浅野
	第6回  ネット検索2、ファイル・フォルダーの管理1 ワードの使い方5、エクセルの使い方5、PPの使い方5	実習	浅野
	第7回  ネット検索3、ファイル・フォルダーの管理2 ワードの使い方6、エクセルの使い方6、PPの使い方6	実習	浅野
	第8回  エクセルの使い方7 (グラフ作成1)、PPの使い方7 PPを用いたプレゼン資料の作成1	実習	浅野
	第9回  エクセルの使い方8 (グラフ作成2)、PPの使い方8、 PPを用いたプレゼン資料の作成2	実習	浅野
	第10回  エクセルの使い方9 (グラフ作成3)、 PPを用いたプレゼン資料の作成3	実習	浅野
	第11回  エクセルの使い方10 (マクロ機能1) PPを用いたプレゼン資料の作成4	実習	浅野
	第12回  エクセルの使い方11 (マクロ機能2) PPを用いたプレゼン資料の作成5	実習	浅野
	第13回  PPを用いたプレゼン資料の発表1	実習	浅野
	第14回	実習	浅野

	PPを用いたプレゼン資料の発表2 エクセルの使い方 (まとめ)		
	第15回  まとめ、最終課題	実習	浅野
授業外学修 (事前学修・事後学修)			
評価方法・評価基準	講義への参加意欲 (出席状況を含む、40%)、提出課題 (60%)		
テキスト	特になし (教材用資料は当日USB等に配付)		
参考図書	特になし		
学生へのメッセージ等	初心者を前提として授業を開始します。熱心に取り組めば、終了時には、充分使いこなせるレベルに到達できるはずです。		

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2年	4	必修
担当教員			
太田 豊作			
添付ファイル			

目的	疾患の病態生理を学習し、臨床的に系統別疾患概念の理解を深め、「疾病のしくみ」を把握する。		
目標	内科学（血液疾患、免疫疾患）、救急医学、産婦人科学、小児科学、臨床検査医学、麻酔科学、放射線医学、泌尿器科学、精神医学の各領域における代表的な疾患の病態・治療・検査と臨床所見について理解する。		
授業計画	授業内容	授業形態	担当者
	第1回 救急医学 1	講義	福島
	第2回 救急医学 2	講義	福島
	第3回 救急医学 3	講義	川井
	第4回 救急医学 4	講義	前川
	第5回 救急医学 5	講義	瓜園
	第6回 臨床検査医学	講義	山崎
	第7回 小児科学 1	講義	内田
	第8回 小児科学 2	講義	大前
	第9回 小児科学 3	講義	荻原
	第10回 小児科学 4	講義	長谷川
	第11回 小児科学 5	講義	大西
	第12回 内科（膠原病・アレルギー疾患）	講義	鮫島
	第13回 内科（血液疾患1）	講義	田中
	第14回 内科（血液疾患2）	講義	田中
	第15回 麻酔科学	講義	阿部
	第16回 産婦人科学 1	講義	三宅
第17回 産婦人科学 2	講義	三宅	

	第18回 産婦人科学 3	講義	長安
	第19回 産婦人科学 4	講義	長安
	第20回 放射線医学 1	講義	伊藤
	第21回 放射線医学 2	講義	田中
	第22回 泌尿器科学 1	講義	中井
	第23回 泌尿器科学 2	講義	後藤
	第24回 精神医学 1 正常と異常 精神症状	講義	太田
	第25回 精神医学 2 統合失調症	講義	太田
	第26回 精神医学 3 気分障害、神経症	講義	太田
	第27回 精神医学 4 神経症各論、心身症	講義	太田
	第28回 精神医学 5 アルコール依存、薬物依存	講義	太田
	第29回 精神医学 6 児童思春期精神医学	講義	太田
	第30回 精神医学 7 老年性精神障害、認知症	講義	太田
授業外学修（事前学修・事後学修）	事前学修：各回の授業テーマにそって教科書を読み、自分が重要だと考えるキーワードを各回3つ抽出する。 事後学修：授業で取り上げたテーマおよび関連する領域について、文献学習も含め知識を増やし、知識を整理しておく。		
評価方法・評価基準	評価方法：前期試験の他に2回中間試験を行う。中間試験（60%）、前期試験（40%） 評価基準：各領域における代表的な疾患の病態・治療・検査と臨床所見について理解できているか。		
テキスト	系統看護学講座「成人看護学② 呼吸器」～「成人看護学⑮ 歯・口腔」 医学書院 系統看護学講座「母性看護学② 母性看護学各論」 医学書院 系統看護学講座「小児看護学① 小児看護学概論 小児臨床看護総論」 医学書院 系統看護学講座「精神看護学① 精神看護の基礎」 医学書院		
参考図書	授業中に紹介する。		
学生へのメッセージ等	授業内容が多く、範囲が膨大であるが挫折せずがんばりましょう。		

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2年	1	必修
担当教員			
松田 明子／山本 美輪／安藤 泰至／伊藤 雪絵			
添付ファイル			
目的	看護師は患者のケアに関してさまざまな意思決定場面に遭遇し、適切に支援する債務がある。現代医療において看護師は、脳死や臓器移植、生殖医療等といった先端医療に関連する倫理的課題や、日常診療やケアにおける倫理的課題に遭遇する。看護実践において倫理的に何が正しいかを決定するためには、必ずその患者に関する事実上の知識と一連の価値を組み合わせて考える必要がある。看護師が適切に倫理的決定を行うためには、自分自身の価値観に気づき、看護専門職としての倫理観を養う必要がある。また、患者を擁護する方法について学び、自らがその価値観の感性を育成し、研鑽していく姿勢を養う。		
目標	1. 看護実践における倫理的課題に気づき、科学的に分析し、その対策が立案できる。 2. 患者を擁護する方法について学び、自らがその価値観の感性を育成し、研鑽していく姿勢を養う。 3. 自分自身の価値観に気づき、看護専門職としての倫理観を養う。		
授業計画	授業内容	授業形態	担当者
	第1回 看護実践のための倫理的概念・倫理原則	講義	松田
	第2回 看護実践における倫理的課題とその対処 ケースで考える臨床現場の倫理的ジレンマ	講義	ゲスト
	第3回 看護実践における倫理的課題とその対処 ケースで考える臨床現場の倫理的ジレンマ/事例分析	講義	伊藤雪絵
	第4回 看護実践における倫理的課題とその対処 ケースで考える臨床現場の倫理的ジレンマ/事例分析/グループ発表	講義	伊藤雪絵
	第5回 終末期医療における倫理的課題	講義	安藤泰至
	第6回 高齢者看護における倫理的問題	講義	山本美輪
	第7回 看護実践における倫理的感性の育成とその課題	講義	大河内大博
	第8回 看護実践における倫理的感性の育成とその課題/グループ発表	演習	松田
授業外学修（事前学修・事後学修）	事前学修：ICN看護師の倫理綱領について読む 事後学修：指示された用紙に、各単元ごとに「学びと課題」について記入する。		
評価方法・評価基準	授業参加度30% ， 課題レポート（70%）		
テキスト	1年次看護学概論使用したテキスト		
参考図書	関連科目で用いるテキスト。その他、授業中に紹介する。		
学生へのメッセージ等	講義を通して自分自身の価値観に気づき、看護専門職としての倫理観を養っていこう。		

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2年	1	必修
担当教員			
松田明子／浅野 沙奈絵／吉川 あゆみ			
添付ファイル			

目的	患者の療養を援助する上で必須となる医療材料・医療器具を用いた技術を習得する。 看護者と対象者を体験することにより、介入・援助技術の理解を深め、看護に必要な態度を習得する。		
目標	1. 診療における援助に関連した基礎看護技術についての原理・原則を理解し、安全・安楽・自立の視点を踏まえて、適切に実施できる。 2. 治療を受ける対象者の個別性に合わせた看護技術活用の必要性を理解し、その状況に応じた看護について記述できる。		
授業計画	授業内容	授業形態	担当者
	第1～2回 ガイダンス／	演習	松田/浅野/吉川
	第3～4回 感染予防技術（滅菌操作）	演習	松田/浅野/吉川
	第5～6回 与薬の技術（注射法）	演習	松田
	第7～8回 呼吸・循環を整える技術（酸素吸入療法・吸引）	演習	松田/浅野/吉川
	第9～10回 治療を受けている患者の生活援助	演習	松田
	第11回 治療を受けている患者の生活援助	演習	松田/吉川/浅野
	第12～13回 治療を受けている患者の生活援助	演習	松田/吉川
	第14～15回 危機的予知訓練	演習	松田
授業外学修（事前学修・事後学修）	事前学修：各単元に関する教科書の箇所を精読し、指定された事前学習課題を行う。 事後学修：各単元の指定された演習記録・事後課題を行う。		
評価方法・評価基準	事前・事後学習課題（40%）、期末試験（30%） 演習記録（20%）、授業参加度（10%）		
テキスト	・香春知永「基礎看護技術 看護過程のなかで技術を理解する 改訂第3版」（南江堂，2018） ・三上れつ他「演習・実習に役立つ基礎看護技術 第4版」（ヌーヴェルヒロカワ，2015） ・医療情報科学研究所編「看護がみえる vol.2 臨床看護技術 第1版」（メディックメディア，2018）		
参考図書	その他、授業中に適宜提示する		
学生へのメッセージ等	遅刻、欠席をせず、演習中は演習に集中することを求めます。 なお、本科目は「基礎看護学実習Ⅱ」を履修するための先修科目です。		



開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2年	1	必修
担当教員			
松田 明子			
添付ファイル			

目的	治療を受ける対象者の健康状態に応じた看護の役割について学ぶ。		
目標	1. 健康の概念を理解し、治療過程と看護の役割について述べる。 2. 治療を受ける対象者を取り巻く環境について理解し、安全管理の視点から援助の必要性や留意点について述べる。 3. 治療を受ける対象者の健康状態、治療経過や薬効評価の視点から判断し、支援方法について述べる事が出来る。		
授業計画	授業内容	授業形態	担当者
	第1回 ガイダンス・安全な診療環境と看護の役割/診療過程と看護の役割	講義	松田
	第2回 治療環境と感染予防	講義 演習	松田
	第3回 退院調整における医療チームの取り組み	講義 演習	ゲスト・松田
	第4回 身体機能評価/機能低下予防	講義 演習	松田
	第5回 知識習得度確認	講義	松田
	第6回 治療を受ける患者の健康と観察/摂食嚥下障害をもつ患者の看護	講義	ゲスト・松田
	第7回 治療を受ける患者の健康と観察/睡眠と看護	講義	松田
	第8回 地域で生活する療養者への看護	講義	ゲスト・松田
授業外学修（事前学修・事後学修）	各課題に沿って事前学修を行う。事後学修：単元ごとに目標に沿って看護の役割について検討する。		
評価方法・評価基準	授業参加度：24%、知識習得度確認：40%、3課題：36%		
テキスト	看護技術学ⅠⅡで使用したテキスト、講義時の資料		
参考図書	授業で随時紹介する。		
学生へのメッセージ等	看護行為は、知識・技能・態度の3つから構成されるといわれており、これらを論理的に統合していくことは、根拠のある看護実践の基本です。本科目は、対象者への侵襲の高い診療に伴う技術を安全に実施するための知識を学びます。なお、本科目は「基礎看護学実習Ⅱ」を履修するための科目です。		

講義科目名称：ヘルスアセスメント

授業コード：K080530

英文科目名称：Health Assessment

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2年	1	必修
担当教員			
松田明子			
添付ファイル			

目的	ヘルスアセスメントの意義と目的を理解し、必要とされる技術、態度を習得する。		
目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>ヘルスアセスメントの意義と目的を理解する。</li> <li>対象者の事前情報に基づき、問診、観察、フィジカルイグザミネーションを行い、情報を収集、整理する方法を理解する。</li> <li>得られた情報を解釈、分析、統合し、健康の査定・判断を行う方法について理解する。</li> </ol>		
授業計画	授業内容	授業形態	担当者
	第1～2回 ヘルスアセスメントと看護の役割	講義	松田
	第3～4回 ヘルスアセスメントにおけるフィジカルアセスメント	講義	松田
	第5～6回 心理・社会的側面のアセスメント	講義	松田
	第7～8回 発表	講義	松田
授業外学修（事前学修・事後学修）	事前学修：各単元に関する教科書の箇所を精読する。 事後学修：各単元の指定された事後課題を行う。		
評価方法・評価基準	評価方法：課題レポート（80%）、授業参加度（20%） 評価基準：ヘルスアセスメントの意義・目的・方法について理解できているか。		
テキスト	<ul style="list-style-type: none"> <li>藤崎郁「フィジカルアセスメント完全ガイド 第3版」（学研, 2017）</li> <li>R・アルファロ・ルフィーヴァ「基本から学ぶ看護過程と看護診断 第7版」（医学書院）</li> <li>香春知永「基礎看護技術 看護過程のなかで技術を理解する 改訂第3版」（南江堂, 2018）</li> </ul>		
参考図書	授業中に適宜提示する		
学生へのメッセージ等	講義、個人・グループワーク、課題学習を組み合わせ進めます。予習・復習と授業への積極的な参加を求めます。なお、本科目は、「基礎看護学実習Ⅱ」を履修するための先修科目です。		

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	2年	2	必修
担当教員			
松田 明子／浅野 沙奈絵／吉川あゆみ			
添付ファイル			
目的	保健・医療・福祉チームが協働する医療体制の意義や医療が展開される環境について理解し、対象者の健康状態や生活を関連づけて判断する視点を学び、よりよい看護実践について考察する。また、対象者の状況を多面的に判断し、根拠に基づいた看護実践を展開する能力を養う。		
目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 保健・医療・福祉チームが協働する医療体制の意義、医療が展開される環境、療養者の支援方法について学び、よりよい看護実践について考察する。</li> <li>2. 看護を実践する上で基盤となる患者への倫理的配慮や対象者と人間関係形成について意識し、対象者に応じた適切な援助方法を判断し実施、評価する。</li> <li>3. 自己の判断と言動を客観的に見つめ、今後の学習課題を見出す。</li> </ol>		
授業計画	基礎看護学Ⅱ要項を参照		
授業外学修（事前学修・事後学修）	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 事前学修 <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 実習に活用できるように以下の科目の履修内容を学習しておくこと。 看護技術学Ⅰ・Ⅱ、フィジカルアセスメント、ヘルスアセスメント、看護過程等</li> </ol> </li> <li>2. 事後学修 <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 実習・カンファレンスを通しての学びの構築 実習における自己の体験について目標に沿って評価し、共有の場面で主体的に発言し、看護の役割について述べ、共有した内容を自己の看護観に繋げる。実習を通して気づきや今後の課題の明確化にする。</li> </ol> </li> </ol>		
評価方法・評価基準	「基礎看護学実習Ⅱ実習評価表」に基づき、実習中の学習成果、カンファレンス、実習記録、自己学習、学習態度、実習成果報告等によって評価する。		
テキスト	今までの授業に用いたテキスト		
参考図書	今までの授業に用いた参考書		
学生へのメッセージ等	看護実践は能動的であり、その状況を適切に判断する能力が実習では必要となります。自己の目標を明確に持ち、自己研鑽し、実習に臨んでください。		

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2年	2	必修
担当教員			
石澤 美保子／田中 登美			
添付ファイル			

目的	健康に障害をもつ成人期にある人の看護を実践するために、成人期の変動する大人の姿を生涯発達論や他者との相互性、生活や仕事といった概念から捉えられるようになる。成人期のさまざまな健康障害に対する基本となる考え方や理論、看護技術の根拠を論ずることができるようになる。		
目標	1) 成人の生活と健康について説明できる。 2) 成人の特徴を捉えつつ大人をレポートし、ディスカッションを通じて身近な大人の発達段階を説明できる。 3) 成人の看護アプローチの基本を説明できる。 4) 成人の健康レベルに応じた看護を説明できる。 5) 成人の健康生活を促すための看護技術の基本を知り説明できる。		
授業計画	授業内容	授業形態	担当者
	第1回 成人看護学総論1 成人の生活と健康－成人と生活－	講義	石澤美保子
	第2回 成人看護学総論2 成人の生活と健康－成人と生活、生活と健康－	講義	石澤美保子
	第3回 成人看護学総論3 成人への看護アプローチの基本	講義	石澤美保子
	第4回 成人看護学総論4 身近な大人の発達段階を探る－グループワークと課題発表－	演習	石澤美保子
	第5回 成人急性期看護学1 成人の健康生活を促すための看護 －侵襲的治療を受ける患者への看護技術①－	講義	石澤美保子
	第6回 成人急性期看護学2 成人の健康生活を促すための看護 －侵襲的治療を受ける患者への看護技術②－	講義	石澤美保子
	第7回 成人看護学総論5 疾病の経過からみた健康状態（急性期、回復期、慢性期、終末期）の特徴	講義	田中登美
	第8回 成人慢性期看護学1 成人の成長・発達、適応を促す看護の基盤となる諸理論 －健康障害から回復を促す看護 ストレス・コーピング理論と看護への活用－	講義	田中登美
	第9回 成人慢性期看護学2 成人の成長・発達、適応を促す看護の基盤となる諸理論 －健康障害から回復を促す看護 危機理論と危機介入①－	講義	田中登美
	第10回 成人慢性期看護学3 成人の成長・発達・適応を促す看護の基盤となる諸理論 －健康障害から回復を促す看護 危機理論と危機介入②－	講義	田中登美
	第11回	講義	田中登美

	成人慢性期看護学4 成人の成長・発達・適応を促す看護の基盤となる諸理論 －健康生活の慢性的な揺らぎと再調整を促す看護 病みの軌跡理論と看護への活用－		
第12回		講義	田中登美
	成人慢性期看護学5 成人の健康生活を促すための看護技術 －成人の学習者の特徴と学習を促す看護技術①－		
第13回		講義	田中登美
	成人慢性期看護学6 成人の健康生活を促すための看護技術 －成人の学習者の特徴と学習を促す看護技術②－		
第14回		講義	石澤美保子
	成人急性期看護学3 成人の健康生活を促すための看護技術－創傷管理技術①－		
第15回		講義	石澤美保子
	成人急性期看護学4 成人の健康生活を促すための看護技術－創傷管理技術②－		
授業外学修（事前学修・事後学修）	事前学修として、各単元のテキストの範囲（事前に通知する）または講義資料（事前に配布する）を熟読し、講義に臨むこと。事後学修として、学修した内容をふまえた授業の復習または課題に取り組むこと。講義開始時に事前事後学修の確認のための小テストを実施する場合がある。		
評価方法・評価基準	小テストと前期試験90%、第4回単元の授業参加度および提出レポート5%、毎回授業終了後のNote of lectureの記載状況5%		
テキスト	系統看護学講座 成人看護学総論 医学書院 （テキストは毎回の講義時必ず持参してください。）		
参考図書	講義時に紹介する。		
学生へのメッセージ等	疾患をもった大人に対して核となる大切な領域です。講義を聴いて、講義内容から自分たちで考える習慣をつけてもらいたいと思います。		

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2年	1	必修
担当教員			
長田 艶子／佐竹 陽子			
添付ファイル			

目的	手術を受ける患者および危機的状況にある患者とその家族に対する看護を理解する。		
目標	1) 手術療法が患者とその家族に与える影響を理解する。 2) 手術侵襲に伴う変化、回復状況、社会生活への適応に向けた看護を理解する。 3) 危機的状況にある患者とその家族に必要な看護を理解する。		
授業計画	授業内容	授業形態	担当者
	第1回 2021年9月22日（水） ガイダンス 手術侵襲と生体反応	講義	長田
	第2回 2021年9月29日（水） 手術前患者の看護	講義	長田
	第3回 2021年10月6日（水） 手術室における看護	講義	長田
	第4回 2021年10月13日（水） 手術後患者の看護①	講義	長田
	第5回 2021年10月20日（水） 手術後患者の看護②	講義	長田
	第6回 2021年10月27日（水） 呼吸機能障害をもつ患者の看護 肺がん患者の看護①	講義	長田
	第7回 2021年11月10日（水） 呼吸機能障害をもつ患者の看護 肺がん患者の看護②	講義	長田
	第8回 2021年11月17日（水） 運動機能障害をもつ患者の看護 人工股関節置換術を受ける患者の看護	講義	長田
	第9回 2021年11月24日（水） 性機能障害をもつ患者の看護 乳がん患者の看護	講義	長田
	第10回 2021年12月1日（水） 循環機能障害をもつ患者の看護 急性心筋梗塞患者の看護①	講義	佐竹
	第11回 2021年12月8日（水） 循環機能障害をもつ患者の看護 急性心筋梗塞患者の看護②	講義	佐竹
	第12回 2021年12月15日（水） 集中治療を受ける患者の看護	講義	長田
	第13回 2021年12月22日（水） 脳・神経機能障害をもつ患者の看護 くも膜下出血患者の看護	講義	佐竹
	第14回 2022年1月5日（水） 消化・吸収障害をもつ患者の看護 胃がん患者の看護	講義	長田

	第15回 2022年1月12日（水） 消化・吸収障害をもつ患者の看護 大腸がん患者の看護	講義	佐竹
授業外学修（事前学修・事後学修）	事前学修：事前に各回に関する教科書の箇所を全て精読してから講義に臨むこと。 事後学修：各回に関する教科書の箇所、講義資料の内容が理解できたか復習し確認する。		
評価方法・評価基準	評価方法：定期試験（90%）、出席カード（10%） 評価基準：定期試験では、各回の内容を理解しているか。出席カードでは、各回の授業に関心を持ち参加したか。		
テキスト	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学 [2][3][5][7][9][10] 医学書院 系統看護学講座 別巻 臨床外科看護総論 医学書院		
参考図書	授業中に紹介する		
学生へのメッセージ等	「健康の理解」、「成人看護学概論」など既修の知識をもとに、手術を受ける患者や集中治療を受ける患者とその家族に対する看護を学びます。事前学修で教科書を読み、関心を持って授業に臨んでください。「成人看護学実習Ⅰ」で看護過程を展開する基礎知識となる科目です。主体的に学ぶ姿勢を身につけましょう。		

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2年	1	必修
担当教員			
石橋 千夏／升田 茂章			
添付ファイル			

目的	慢性病とともに生きる患者とその家族の特徴を理解し、患者や家族が病気をマネジメントしながらその人らしく生活するための支援について学ぶ		
目標	1) 生涯にわたり病気のコントロールを必要とする慢性疾患患者の身体・心理・社会的特徴を理解する。 2) 代表的な慢性疾患について、診断・治療過程を知り、患者に起こりうる経過を予測できる。 3) 代表的な慢性疾患を通して、疾患特異的なセルフマネジメントについて理解する。 4) 患者・家族がその人らしく生活するために、個別性を考慮した看護を実践できる。		
授業計画	授業内容	授業形態	担当者
	1 慢性疾患とともに生きる人の特徴	講義	石橋
	2 慢性疾患のセルフマネジメントと看護支援①	講義	石橋
	3 慢性疾患のセルフマネジメントと看護支援②	講義	石橋
	4 慢性疾患のセルフマネジメントと看護支援③	講義	石橋
	5 慢性疾患とともに生きる人への看護支援①消化機能障害	講義	石橋
	6 慢性疾患とともに生きる人への看護支援②内分泌・代謝機能障害	講義	石橋
	7 慢性疾患とともに生きる人への看護支援③腎機能障害	講義	升田
	8 慢性疾患とともに生きる人への看護支援④循環機能障害	講義	升田
	9 慢性疾患とともに生きる人への看護支援⑤脳神経機能障害	講義	石橋
	10 慢性疾患とともに生きる人への看護支援⑥呼吸機能障害	講義	石橋
	11 慢性疾患とともに生きる人への看護支援の実際①	講義 演習	石橋 升田
	12 慢性疾患とともに生きる人への看護支援の実際②	講義 演習	石橋 升田
	13 慢性疾患とともに生きる人への看護支援の実際③	講義 演習	石橋 升田
	14 慢性疾患とともに生きる人への看護支援の実際④	講義 演習	石橋 升田
	15 慢性疾患とともに生きる人への看護支援の実際⑤	講義 演習	石橋 升田
授業外学修（事前学修・事後学修）	①患者の理解の基盤となる人体構造学、人体機能学、病態医学、薬理学は、単元で提示する代表疾患にそって復習しておきましょう。 ②成人看護学概論で学んだ理論・概念について、実践に活用できるように理解を深めておきましょう。		



評価方法・評価基準	定期試験40%、レポート60%
テキスト	系統看護学講座 専門分野 成人看護学[2]～[10] 医学書院 成人看護学 慢性期看護論 第3版 ヌーヴェルヒロカワ
参考図書	適宜紹介する
学生へのメッセージ等	病態医学や成人看護学概論で学んだことをふまえ、療養生活を送る患者・家族への支援について考え、実践します。 日常生活での経験も活用し、自ら考えることをのぞみます。今後の臨床実践をイメージして主体的に取り組みましょう。

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2年	2	必修
担当教員			
澤見 一枝/木村 満夫/古角美保子			
添付ファイル			

目的	生理的加齢変化と生活機能、高齢者の生活史と心理を理解する。 老年看護学に必要なとされる理論及び高齢者の包括的アセスメントを学ぶ。 高齢者看護学の基本と看護師の役割を学ぶ。		
目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 生理的加齢変化を説明できる。</li> <li>2. 高齢者の生活機能を理解する。</li> <li>3. 高齢者の生活史と心理を理解する。</li> <li>4. 老年看護学に必要なとされる理論について説明できる。</li> <li>5. 高齢者の包括的アセスメントの特徴について具体的に述べるができる。</li> <li>6. 高齢者に多い症状と特徴的な健康障害について説明できる。</li> </ol>		
授業計画	授業内容	授業形態	担当者
	第1回 老年期の特徴と高齢者の生活の理解	講義	澤見、木村、古角
	第2回 加齢に伴う変化	講義	澤見、木村、古角
	第3回 高齢者の総合的機能評価	講義	澤見、木村、古角
	第4回 高齢者に多い症状とアセスメント	講義	澤見、木村、古角
	第5回 高齢者の機能障害 疑似体験オリエンテーション	講義	澤見、木村、古角
	第6回 右麻痺患者の疑似体験 1	講義	澤見、木村、古角
	第7回 右麻痺患者の疑似体験 2	講義	澤見、木村、古角
	第8回 高齢者の生活支援 1 グループホーム（認知症対応型共同生活介護）の生活の特徴、 実習について オムニバス グループホームの全容：澤見30分、グループホーム実習の実際：木村・古角各20分	講義	木村、古角、澤見
	第9回 特別養護老人ホーム（介護老人福祉施設）の生活の特徴、実習について オムニバス 特別養護老人ホームの全容：澤見30分、グループホーム実習の実際：木村・古角各20分	講義	木村、古角、澤見
	第10回 介護老人保健施設の生活の特徴、実習について オムニバス 介護老人保健施設の全容：澤見30分、グループホーム実習の実際：木村・古角各20分	講義	木村、古角、澤見
	第11回 GH・特養・老健について、グループワーク、発表会 GH・特養・老健の3群に分けてグループワーク30分、発表会15グループで持ち時間3分	講義	木村、古角、澤見
	第12回 消化器疾患の高齢者のケア、実習について 1	講義	木村、古角、澤見
	第13回 消化器疾患の高齢者のケア、実習について 2	講義	澤見、古角、木村
	第14回	講義	木村、澤見

	脳神経疾患の高齢者の特徴とケア、実習について		
	第15回 高齢者の価値観、死生観	講義	澤見、木村
授業外学修（事前学修・事後学修）	事前学修：各回の講義テーマに沿ってテキストを読んでおくこと。それを踏まえて授業中の課題を完成する。 事後学修：授業中の課題を完成して提出すること。		
評価方法・評価基準	定期試験70%、課題レポート30%		
テキスト	系統看護学講座 老年看護学 医学書院		
参考図書	授業中に紹介します		
学生へのメッセージ等	生理的加齢変化と生活機能を理解し、高齢者看護の役割を学びましょう		

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2年	1	必修
担当教員			
澤見 一枝/木村 満夫/古角美保子			
添付ファイル			

目的	生活機能低下のある高齢者へのケアの実際を理解する。 高齢者の生活機能を踏まえ、疾患をもち加療中の高齢者のアセスメントを理解する。		
目標	1. 高齢者に多い生活機能低下を理解する。 2. 生活機能低下のある高齢者のケアの実際を演習によって理解する。 3. 高齢者の生活機能を踏まえ、疾患をもち加療中の高齢者のアセスメントの実際を学ぶ。		
授業計画	授業内容	授業形態	担当者
	第1回 高齢者の生活機能、認知症予防について	講義	澤見、木村、古角
	第2回 認知症高齢者のケア	講義	認定看護師、澤見、木村、古角
	第3回 認知症高齢者のケア：事例検討	講義	認定看護師、澤見、木村、古角
	第4回 高齢者の生活機能 ①健康管理 アセスメント提出	講義 演習	澤見、木村、古角
	第5回 高齢者の癌看護（化学療法）	講義	認定看護師、澤見、木村、古角
	第6回 高齢者の癌看護（放射線療法）	講義 演習	認定看護師、澤見、木村、古角
	第7回 高齢者の癌看護（演習）	講義 演習	認定看護師、澤見、木村、古角
	第8回 高齢がん患者の症状、注意点と望ましいケア 化学療法・放射線療法・コミュニケーションの3群に分けてグループワーク20分、発表会60分（15グループ持ち時間3分）	演習	澤見、木村、古角
	第9回 高齢者の生活機能 ②栄養	講義	澤見、木村、古角
	第10回 高齢者の栄養を考える 口腔・嚥下機能、食文化（行事食や伝統的和食など）、高齢者の嗜好や食への思いの3群に分けてグループワーク20分、発表会60分（15グループ持ち時間3分）	講義 演習	澤見、木村、古角
	第11回 高齢者の価値観、回想法 講義40分、グループワーク：グループ回想法・高齢者の価値観を考える40分	講義 演習	澤見、木村、古角
	第12回 価値観、グループ回想の内容についての発表会、15グループ・持ち時間5分	講義 演習	澤見、木村、古角
	第13回 高齢者の生活機能 ③排泄	講義 演習	澤見、木村、古角
	第14回 高齢者の生活機能 ④活動	講義 演習	澤見、木村、古角
第15回 高齢者の生活機能 ⑤睡眠 講義	講義 演習	澤見、木村、古角	

授業外学修（事前学修・事後学修）	事前学修：各回の講義テーマに沿ってテキストを読んでおくこと。それを踏まえて授業中の課題を完成する。 事後学修：授業中の課題を完成して提出すること。
評価方法・評価基準	試験70%、レポート30%
テキスト	看護診断ハンドブック 医学書院
参考図書	授業中に適宜紹介します。
学生へのメッセージ等	人生の最終段階で出会いたい人は、質の高い看護を提供できる看護師です。 高齢者に最高の看護ケアを提供できるようしっかり学んでいきましょう。 高齢者のアセスメントの基本をしっかり身につけましょう。

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2年	2	必修
担当教員			
川上 あずさ			
添付ファイル			

目的	子どもと家族がもっている力が最大限発揮できるよう援助を行っていくための基礎的知識として、子どもの発達、家族の発達、倫理、社会制度などの知識を習得する。そのことにより、小児看護の対象である子どもと家族を、統合的にとらえることができるようになる。		
目標	1) 子どもとは、子どもの権利、小児看護における倫理について説明できる。 2) 子どもの成長・発達とその発達段階に適した看護について説明できる。 3) 子どもにとっての家族、家族の発達と課題について説明できる。 4) 子どもをとりまく社会の状況について説明できる。 5) 小児看護の動向や今後の課題について説明できる。		
授業計画	授業内容	授業形態	担当者
	第1回  子どもとは 小児看護とは	講義	川上
	第2回  子どもの権利と小児看護における倫理	講義	川上
	第3回  小児看護で用いられる理論とその活用 1	講義	川上
	第4回  小児看護で用いられる理論とその活用 2 子どもの成長・発達の原則	講義	川上
	第5回  乳児期の子どもの成長・発達と看護 1－子どもの活動－	講義	川上
	第6回  乳児期の子どもの成長・発達と看護 2－子どもの反応－	講義	川上
	第7回  幼児期の子どもの成長・発達と看護 1－基本的生活習慣の獲得・セルフケア－	講義	川上
	第8回  幼児期の子どもの成長・発達と看護 2－基本的生活習慣の獲得－	講義	川上
	第9回  子どもと家族 1	講義	ゲストスピーカー カー・川上
	第10回  子どもと家族 2 きょうだいの支援について	講義	川上
	第11回  学童期の子どもの成長・発達と看護－学童期におこりやすい課題－	講義	川上
	第12回  思春期の子どもの成長・発達と看護－思春期・AYA世代におこりやすい課題－	講義	川上
	第13回  現代の子どもがおかれている状況や問題	講義	川上
	第14回	講義	川上

	子どもと家族の健康を支える社会制度		
	第15回	講義	川上
	小児看護の動向と今後の課題		
授業外学修（事前学修・事後学修）	事前学習として、テキストの各授業内容の範囲を読んで授業に臨む。 事後学習として、資料を活用し授業内容をまとめる。		
評価方法・評価基準	筆記試験（80%）、提出物・授業貢献度（20%）を総合して評価します。		
テキスト	奈良間美保他著：系統看護学講座専門分野Ⅱ小児看護学1，医学書院.		
参考図書	舟島なをみ：看護のための人間発達学第4版，医学書院. 他、授業で紹介する。		
学生へのメッセージ等	日常で会う子どもや、子どもをとりまく環境、情報について関心を高めてください。		

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2年	1	必修
担当教員			
小代 仁美			
添付ファイル			

目的	子どもの疾患や障がい、入院が、子どもおよびその家族の機能や幸福に及ぼす影響を理解し、子どもの成長・発達と安寧、健康生活の向上を支援する看護援助のあり方を考える。		
目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1) 小児期に特徴的な疾患や障がいを子どもの発達の特徴と関連して理解する。</li> <li>2) 疾患や障がいおよび入院が、子どもおよびその家族の生活に及ぼす影響を理解する。</li> <li>3) 子どもの発達段階や健康状況、入院環境に対応した看護を理解する。</li> <li>4) 手術療法、薬物療法による子どもと家族に及ぼす影響を理解する。</li> <li>5) 長期療養・終末の時期における子どもと家族を理解する。</li> <li>6) 疾患や障がいのある子どもおよびその家族へQOLを高める援助の基本を理解する。</li> </ol>		
授業計画	授業内容	授業形態	担当者
	第1回 講義ガイダンス / 身体・治療状況における子どもと家族の看護	講義	小代
	第2回 身体・治療状況における子どもと家族の看護	講義	小代
	第3回 呼吸機能に障がいのある子どもと家族の看護	講義	小代
	第4回 免疫機能に障がいのある子どもと家族の看護	講義	小代
	第5回 代謝機能に障がいのある子どもと家族の看護	講義	小代
	第6回 神経機能に障がいのある子どもと家族の看護	講義	小代
	第7回 染色体に障がいのある子どもと家族の看護	講義	小代
	第8回 発達に障がいのある子どもと家族の看護	講義	小代
	第9回 循環機能に障がいのある子どもと家族の看護	講義	小代
	第10回 血液・造血機能に障がいのある子どもと家族の看護	講義	小代
	第11回 消化・吸収機能に障がいのある子どもと家族の看護	講義	小代
	第12回 運動機能に障がいのある子どもと家族の看護	講義	小代
	第13回 腎・泌尿器機能に障がいのある子どもと家族の看護	講義	小代
	第14回 小児がんの子どもと家族の看護	講義	小代
	第15回 ハイリスク新生児と親の看護	講義	小代



授業外学修（事前学修・事後学修）	<p>事前学修：講義終了時に、次の講義の事前学修を提示しますので事前学修をして臨んで下さい。また、グループ課題に</p> <p>取り組んで、資料作成して発表の準備をして下さい。</p> <p>事後学修：講義時の「本日のポイント」を事後学修して下さい。</p>		
評価方法・評価基準	評価方法：定期テスト		
テキスト	<p>系統看護学講座専門Ⅱ 小児看護学1 小児看護学概論・小児臨床看護総論 医学書院</p> <p>系統看護学講座専門Ⅱ 小児看護学2 小児臨床看護各論 医学書院</p>		
参考図書	<p>小児看護学概論 改訂第3版 南江堂</p> <p>小児看護技術 改訂第3版 南江堂</p> <p>講義の中で紹介</p>		
学生へのメッセージ等	<p>学習にあたって、人体構造学，人体機能学，基礎薬理学，臨床薬理学および病態医学Ⅲ（小児科学1～5）の小児期に特徴的な疾患の病態・症状・診断・治療について知識が必要です。「子どもにとって最善の利益」「子どもを守る看護」を基盤に、疾患や障がいのある子どもと家族の看護を一緒に考えていきましょう。</p> <p>講義の中で，“子どもの主要疾患とその看護”に関してグループ発表をしていただきます。具体的には、1つのグループが1つの疾患と看護を調べて、資料を作成し、発表する。</p> <p>*尚、COVID-19禍による、後期時期の授業形態により、グループ学習の内容や方法を変更する場合があります。</p>		

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2年	2	必修
担当教員			
五十嵐 稔子			
添付ファイル			

目的	母性とは何か、母性を取り巻く環境への理解を深め、女性の一生を通じた健康の維持・増進、リスク予防を目的とした看護を支える基礎知識を習得する。		
目標	1) 母性の概念及びその特徴が説明できる。 2) 母性をとりまく環境と、それが健康に及ぼす影響について理解できる。 3) 女性のライフサイクル各期の特徴と発達課題が説明できる。 4) 女性のライフサイクル各期における健康上の課題とその要因について説明できる。 5) 女性のライフサイクル各期に応じた援助について理解できる。 6) 母性看護の理念と役割および倫理について理解できる。		
授業計画	授業内容	授業形態	担当者
第1回	2021年4月8日（木） 授業ガイダンス 親になることと母性、母子関係と家族発達	講義	五十嵐
第2回	2021年4月15日（木） セクシュアリティ、リプロダクティブヘルス、ヘルスプロモーション	講義	五十嵐
第3回	2021年4月22日（木） 母性看護の理念、母性看護における倫理、安全管理	講義	五十嵐
第4回	2021年4月29日（木） 休日開講 母性看護の歴史の変遷と現状	講義	五十嵐
第5回	2021年5月6日（木） 母子保健統計	講義	五十嵐
第6回	2021年5月13日（木） 母性看護の対象を取り巻く環境	講義	五十嵐
第7回	2021年5月20日（木） 母性の対象理解① 身体的特性	講義	五十嵐
第8回	2021年5月27日（木） 母性の対象理解② ライフサイクル、母性の発達・成熟・伝承	講義	五十嵐
第9回	2021年6月3日（木） 母性看護に必要な看護技術① 看護過程、情報収集、アセスメント	講義	五十嵐
第10回	2021年6月10日（木） 母性看護に必要な看護技術② アドボカシーと意思決定を支える技術、保健指導	講義	五十嵐
第11回	2021年6月17日（木） ライフサイクル各期における母性看護① 思春期 成熟期 更年期 老年期	講義	五十嵐
第12回	2021年6月24日（木） ライフサイクル各期における母性看護② 思春期教育の実際 ゲストスピーカーによる講義。遠隔授業の場合、日程を調整（対面授業の日に変更）することがあります。	講義	五十嵐
第13回	2021年7月1日（木） リプロダクティブ・ヘルスケア①家族計画・人工妊娠中絶症	講義	五十嵐
第14回	2021年7月8日（木） リプロダクティブ・ヘルスケア②性感染・HIV・喫煙	講義	五十嵐

	第15回 2021年7月15日（木） リプロダクティブ・ヘルスケア③DV・児童虐待・国際社会の母子保健	講義	五十嵐
授業外学修（事前学修・事後学修）	事前学習：教科書の、各回の講義テーマに該当する部分を読んでおく 事後学習：講義内容をまとめておく		
評価方法・評価基準	評価方法：ミニッツレポート（15回）30%と試験70%により評価します。 評価基準：ミニッツレポートは、授業の終わりに理解度の確認を行います。 試験は、15回の授業の範囲とします。		
テキスト	系統看護学講座専門Ⅱ 母性看護学〔1〕 母性看護学概論，医学書院		
参考図書	母性看護学概論/ウィメンズヘルスと看護，メヂカルフレンド社 国民衛生の動向、厚生統計協会		
学生へのメッセージ等	生涯を通じた女性の健康や、妊娠・出産・育児に関する様々な問題について理解を深めます。 講義を通して、自分の価値観・考えについて振り返る機会になると思います。自ら考える姿勢で取り組んでください。		

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2年	1	必修
担当教員			
森兼 眞理／岡山 眞理			
添付ファイル			

目的	妊娠、分娩の正常経過および合併症について理解できる。 妊産婦と家族の看護について理解できる。 妊娠、分娩の学修を通して生命の尊厳を考えることができる		
目標	1) 妊娠期および分娩期の正常経過を説明することができる。 2) 妊産婦および家族への基本的な援助技術を理解できる。 3) 事例演習により、ウェルネス型看護診断に基づく看護過程を理解することができる。 4) ハイリスク妊産婦および家族の看護を理解できる。 5) 生命の尊厳について考えることができる。		
授業計画	授業内容	授業形態	担当者
第1回	2021年9月30日（木） 母性看護学援助論で学習すること 妊娠期の身体的特性・心理的特性	講義	森兼 岡山
第2回	2021年10月7日（木） 妊婦と胎児のアセスメント	講義	森兼 岡山
第3回	2021年10月14日（木） 妊婦の健康診査	講義	森兼 岡山
第4回	2021年10月21日（木） 妊婦と家族の看護	演習	森兼 岡山
第5回	2021年10月28日（木） 妊婦の看護過程	講義と演習	森兼 岡山
第6回	2021年11月4日（木） 妊娠期の異常と看護	講義	森兼 岡山
第7回	2021年11月11日（木） 分娩の要素・分娩経過	講義	森兼 岡山
第8回	2021年11月18日（木） 産婦・胎児・家族のアセスメント、産婦と家族の看護	講義	森兼 岡山
第9回	2021年11月25日（木） 分娩期の看護	講義	森兼 岡山
第10回	2021年12月2日（木） 産婦の看護過程	講義と演習	森兼 岡山
第11回	2021年12月9日（木） 分娩の異常と看護 1	講義	森兼 岡山
第12回	2021年12月16日（木） 分娩の異常と看護 2	講義	森兼 岡山
第13回	2021年12月23日（木） 不妊治療・出生前診断・母性保護に関する法的支援	講義	森兼 岡山
第14回	2022年1月6日（木） 地域母子保健の実際 ～妊娠届けの把握、パパママクラス、訪問支援～	講義	ゲストスピーカー
第15回	2022年1月13日（木） 妊娠期・分娩期のまとめ	講義	森兼 岡山

授業外学修（事前学修・事後学修）	事前学修；事前に、授業で学習する教科書のページ数とキーワードを提示する。予習クイズを回答して臨むこと。 事後学修；授業終了時に復習クイズを提示する。次回授業までに回答しておくこと。
評価方法・評価基準	試験70点（小テスト2回、定期試験）、演習課題30点（レポート課題等） レポートはすべて教務システムにアップロードして提出してください。紙面での受付はしません。余裕をもって提出してください。
テキスト	系統看護学講座 母性看護学各論 医学書院  ウエルネスにもとづく母性看護過程 太田操編著 医歯薬出版株式会社 第3版
参考図書	新体系看護学全書 母性看護学2 マタニティサイクルにおける母子の健康と看護 メヂカルフレンド社 目でみる妊娠と出産 文光堂
学生へのメッセージ等	妊娠・分娩の生理について学び、妊産婦とその家族の看護について学習しましょう。 講義だけでなく、看護技術演習では妊婦役や産婦役になりどんな看護が求められるか考えます。  小テストでは、知識を整理し次のステップに進めるようにしましょう。  ※演習や小テストの日程は、変更することがあります。第1回目の授業で提示します。

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2年	2	必修
担当教員			
風間 眞理			
添付ファイル			

目的	あらゆる発達段階・健康段階にある人々の精神の健康問題を理解し、人間関係をベースとする理論を学ぶ。また、精神医療の変遷とともに精神障害者に対する社会の変化や法律、社会資源について理解する。		
目標	こころの健康に関する理解と精神障害者が社会に置かれている現状を理解し、精神看護に求められている考えることができる。		
授業計画	授業内容	授業形態	担当者
第1回	精神の健康問題の捉え方と危機① 心の健康、精神の構造と機能、精神の健康に影響を与える要因を知る	講義	風間
第2回	精神の健康問題の捉え方と危機② こころの健康に関する危機とストレス	講義	風間
第3回	精神の健康問題の捉え方と危機③ ライフサイクルにおける精神の健康と危機について	講義	風間
第4回	精神の健康問題の捉え方と危機④ 医療施設以外で精神看護が展開される場	講義	風間
第5回	地域における精神看護・精神保健 DVDの視聴から精神看護・精神保健を考える	講義	風間
第6回	精神看護学で活用する患者－看護師関係の発展モデル Peplau, H, E (ペプロウ) Orland, I, J (オーランド) Travelbee, J (トラベルビー) Wiedenbach, H (ウィーデンバック)	講義	風間
第7回	精神医療の変遷 日本及び欧米諸国の精神医療の変遷	講義	風間
第8回	社会と精神障害① 精神医療と看護における倫理と人権	講義	風間
第9回	社会と精神障害② 法律(精神保健福祉法、医療観察法)の内容を学ぶ	講義	風間
第10回	社会と精神障害③ 社会保障(障害者総合支援法)の内容を学ぶ	講義	風間
第11回	リエゾン精神看護の役割と多職種との関係	講義	風間
第12回	精神保健福祉士との協働 精神保健福祉士から実際のソーシャルワークを聞き、看護師との協働について考える	講義	非常勤講師 風間
第13回	実話から精神看護を考える①	講義	風間
第14回	実話から精神看護を考える②	講義	風間
第15回	ストレングスモデルを考える	講義	風間

授業外学修（事前学修・事後学修）	事前学修：各回の講義テーマに関する課題を出すので行う事 事後学習：授業内容で興味・関心のあったことについて振り返り、自分の考えをまとめる。
評価方法・評価基準	評価方法：レポート（40%）、小テスト（20%）、事前課題（40%） 評価基準：レポートは自分で考え、意見が述べられていること。テーマからずれていないこと。事前課題は自分で考え、調べて回答していること。
テキスト	1) 系統看護学講座 精神看護の基礎 精神看護学① 武井麻子 他 医学書院 2) 系統看護学講座 精神看護の展開 精神看護学② 武井麻子 他 医学書院
参考図書	1) 精神看護と法・倫理 坂田三允編 中山書店 2) 学生のための精神医学 第3版 太田保之・上野武治編 医歯薬出版株式会社 3) 医療福祉総合ガイドブック2020年度版 NPO法人 日本医療ソーシャルワーク研究会
学生へのメッセージ等	日々の生活の中でこころの健康や精神障害、精神疾患をキーワードとしてニュースや記事、本を読み見分を広めてください。

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2年	1	必修
担当教員			
橋本 顕子／風間 眞理			
添付ファイル			

目的	精神に健康問題をもつ人の看護に用いられる理論を活用し、看護を展開するための基本的技法やアセスメントの視点を学ぶ。		
目標	1) 精神の健康問題のメカニズムとアセスメント方法が理解できる。 2) 精神に健康問題をもつ人との基本的技法が理解できる。 3) 精神に健康問題をもつ人の情報を生物学的・心理学的・社会的側面からアセスメントする方法を理解できる。 4) 精神に健康問題をもつ人へ生物学的・心理学的・社会的側面からアプローチする看護を考えることができる。		
授業計画	授業内容	授業形態	担当者
第1回	2021年9月22日（水） 精神障害の病態を考える 代表的な精神障害の病態について考えることができる	講義	橋本
第2回	2021年9月29日（水） 対象を理解する①生物学的側面 精神機能とその障害と精神症状 精神障害をもつ人の情報から生物学的側面のアセスメント方法が理解できる	講義・演習	橋本
第3回	2021年10月6日（水） 病の体験を聴く 地域で生活している当事者の話 <課題1回目 レポート> 福祉施設を利用している当事者から体験を聴き、精神障害をもちながら生活することの生きにくさや生きる希望、当事者を支援する福祉施設を理解し、看護の役割等を考え、記述することができる	講義	当事者・支援者
第4回	2021年10月13日（水） 対象を理解する②心理学的側面 心の働き、自我機能（防衛機制） 精神障害をもつ人の情報から心理学的側面のアセスメント方法が理解できる	講義・演習	橋本
第5回	2021年10月20日（水） 対象を理解する③社会的側面 精神障害をもつ人の情報から社会的側面のアセスメント方法が理解できる	講義・演習	橋本
第6回	2021年10月27日（水） 精神看護における基本的技法 精神障害をもつ人の観察やコミュニケーションの特徴を理解できる	講義・演習	橋本・風間
第7回	2021年11月10日（水） 精神看護におけるコミュニケーション技法① <課題2回目 プロセス・レコード> プロセス・レコードを書き、自己理解を深めることができる	講義・演習	橋本
第8回	2021年11月17日（水） 精神看護における治療の人間関係 <第1回目 小テスト> 治療の人間関係における自己活用、患者-看護師関係の発展について理解できる	講義・演習	橋本
第9回	2021年11月24日（水） 精神看護におけるコミュニケーション技法② 音楽療法 非言語コミュニケーションの活用を理解できる	講義・演習	音楽療法士 石原興子先生
第10回	2021年12月1日（水） 精神看護における主な理論を用いる① <課題3回目 セルフケアの情報収集> オレム・アンダーウッドモデルを用いてセルフケアについて情報収集できる	講義・演習	橋本
第11回	2021年12月8日（水） 精神看護における主な理論を用いる② <課題3回目 セルフケア能力のアセスメント> オレム・アンダーウッドモデルを用いてセルフケアをアセスメントできる	講義・演習	橋本



	第12回	2021年12月15日(水) 精神疾患の治療と看護①生物学的側面からのアプローチ 薬物療法と看護 精神障害をもつ人の情報から薬物療法におけるセルフケアをアセスメントできる	講義	認定看護師 森脇崇先生
	第13回	2021年12月22日(水) 精神看護の治療と看護②心理学的・生物学的アプローチ 精神療法・電気けいれん療法と看護(検査・自己管理) 精神障害をもつ人の情報から精神療法および電気けいれん療法におけるセルフケアをアセスメントできる	講義	橋本
	第14回	2022年1月5日(水) 精神疾患の治療と看護③社会的側面からのアプローチ 作業療法・レクリエーション療法 作業療法、レクリエーション療法を体験し、その観察ポイントを理解できる	講義・演習	作業療法士
	第15回	2022年1月12日(水) 精神疾患の治療と看護④社会的側面からのアプローチ <第2回目 小テスト> まとめ 実話をもとに、社会参加・地域支援を考えることができる	講義	橋本
授業外学修(事前学修・事後学修)	事前学修: 毎回次回の授業範囲を示す。テキストには事例が多く示されている。各回の講義テーマにそってテキスト(毎回提示する)を読むなど準備して、事例でイメージ化を図り、関心をもって授業に臨む。 事後学修: 授業で紹介するテキストや参考資料等をもとに復習し、それに対する自分の考えを整理しておく。また、自らの精神健康に気づき、精神(こころ)の健康問題・課題などの社会的事象について興味・関心をもち、学びを深める。			
評価方法・評価基準	評価方法: 課題レポート3回(45%)、授業内で実施する小テスト2回(40%)と各回の事後レポート(15%) 評価基準: ・課題レポートは、テーマ毎の内容を理解・整理し、対象者をどのように理解し、どのように看護していくか自分の考えを提示されているか。 ・小テストは、授業で学んだ内容を確認する。 ・事後レポートは、各回のテーマを理解し、自分なりの問題意識を持つことができているか。			
テキスト	1) 武井麻子他編著「系統看護学講座 専門分野Ⅱ 精神看護学① 精神看護の基礎」、医学書院 2) 武井麻子他編著「系統看護学講座 専門分野Ⅱ 精神看護学② 精神看護の展開」、医学書院			
参考図書	1) 服部祥子著「生涯発達人間論—人間への深い理解と愛情を育むために」、第3版、医学書院 2) 宇佐美しおり・鈴木啓子著「オレムのセルフケアモデル—事例を用いた看護過程の展開」、第2版、NOUVELLE HIROKAWA 3) 太田保之他編「学生のための精神医学 第3版」、医歯薬出版株式会社 4) 山本勝則他編著「看護実践のための根拠がわかる精神看護技術」、メヂカルフレンド社 5) 水谷緑著「精神科ナースになったわけ」、イースト・プレス 6) 中村ユキ著・高森信子監修「マンガでわかる! 統合失調症 家族の対応編」、日本評論社			
学生へのメッセージ等	授業内容は変更の可能性がある。 皆さんとの対話を通して、精神障害をもつ人への支援について一緒に学んでいきたいと思っている。			

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2年	2	必修
担当教員			
城島 哲子			
添付ファイル			

目的	公衆衛生看護学の理念、目標・活動の場・対象を理解し、公衆衛生看護活動の基盤となる概念・理論を理解する。		
目標	1、公衆衛生看護学の成立基盤である、歴史、法的根拠、保健医療福祉制度における保健師の位置付けを理解する 2、公衆衛生看護学の対象と活動方法とその特性を理解する 3、社会環境の変化と健康課題との関連を理解する		
授業計画	授業内容	授業形態	担当者
	第1回  公衆衛生看護学の基盤 1) 予防・公衆衛生・地域看護の概念	講義	城島
	第2回  2) 日本の保健医療福祉制度における保健師の位置付け	講義	城島
	第3回  公衆衛生看護活動の理念 1) WHOの提唱するヘルスプロモーションとは	講義	城島
	第4回  2) エンパワメント、自己決定	講義	城島
	第5回  3) 自立的な生活への支援・強化 4) 健康を志向するまちづくり	講義	城島
	第6回  公衆衛生看護活動の倫理 1) 基本的人権の尊重と公的責任 2) アドボカシーとエンパワメント	講義	城島
	第7回  地域看護の歴史 1) イギリス、アメリカで始まった地区看護・巡回訪問活動 2) アメリカの公衆衛生看護活動・ニューヨークのセツルメント	講義	城島
	第8回  3) 日本の訪問看護・巡回看護の始まり	講義	城島
	第9回  4) 第二次世界大戦後の公衆衛生看護活動	講義	城島
	第10回  公衆衛生看護活動の展開の場 1) 保健所・市町村保健センター・地域包括支援センター・産業・学校	講義	城島
	第11回  社会環境の変化と健康課題 1) 社会問題としての「健康格差」	講義	城島
	第12回  地域看護診断—保健師活動のコア 1) 地域看護診断とコミュニティ・アズ・パートナーモデル	講義	城島
	第13回	講義	城島

	2) 地域看護診断の事例 1 3) 地域看護診断の事例 2		
	第14回  公衆衛生看護活動の評価、活動の質の保証 1) PDCAサイクルによる活動の評価 2) プリシード・プロシードモデル (みどりモデル) による評価	講義	城島
	第15回  特色のある保健師活動 1) へき地における保健師活動	講義	城島
授業外学修 (事前学修・事後学修)	事前学修：各回の講義内容にそって指定テキストを確認し、自ら概要を把握しておく。 事後学修：各回の講義ノートと配布資料をもとに内容をまとめ、整理しておく。		
評価方法・評価基準	出席日数で受験資格を判定する。定期試験により成績評価する。		
テキスト	1 標準保健師講座①：地域看護学概論 (第4版)：医学書院 2. 公衆衛生看護学.jp 第4版、データ更新版：インターメディカル		
参考図書	1 国民衛生の動向：厚生統計協会		
学生へのメッセージ等	公衆衛生看護学概論では看護の学士課程においてコア (中核) となる看護実践能力と卒業時の到達目標にも含まれる内容を教授します。保健師選択を希望する学生も看護師を希望する学生も、集団・地域に働きかける公衆衛生看護活動について一緒に学びましょう。		

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2年	2	必修
担当教員			
城島 哲子／堀内 沙央里／日高 庸晴			
添付ファイル			

目的	公衆衛生の基本と公衆衛生看護の基盤となる法律や施策を理解し、具体的な行政機関や保健師、関係職種が行う公衆衛生活動の実際の内容と方法が理解できる		
目標	1) 対象別の公衆衛生保健活動が理解できる 2) 住民の健康増進を支援する活動が理解できる		
授業計画	授業内容	授業形態	担当者
	第1回 母子保健 1 母子保健の動向・政策	講義	堀内/城島
	第2回 母子保健 2 地域における母子保健活動（市町村・保健所）	講義	堀内/城島
	第3回 母子保健 3 乳幼児健康診査と保健指導（4か月児健診、1歳6か月児健診、3歳児健診他）	講義	堀内/城島
	第4回 精神保健 1 精神保健の動向、 精神疾患患者を支える施策	講義	堀内/城島
	第5回 精神保健 2 地域における精神保健活動（自殺、アディクション、ひきこもり、障害者虐待）	講義	堀内/城島
	第6回 成人保健 1 成人保健対策の動向 健康をめぐる統計指標	講義	城島
	第7回 成人保健 2 健康日本2 1（二次）の目標値	講義	城島
	第8回 成人保健 3 特定健康診査・特定保健指導	講義	城島
	第9回 成人保健 4 生活習慣病予防 ライフスタイル改善	講義	城島
	第10回 歯科保健 1 歯科保健の動向・関係法規	講義	口腔外科学医員
	第11回 歯科保健 2 歯科の健康と全身疾患との関連性	講義	口腔外科学医員
	第12回 難病保健 1 難病対策の歴史、難病保健施策と関係機関との協働	講義	堀内/城島
	第13回 感染症保健 1 感染症の動向と感染症対策	講義	堀内/城島
	第14回 感染症保健 2 結核管理の基本	講義	堀内/城島

	第15回 マイノリティ対策 LGBTQへの対応	講義	日高
授業外学修（事前学修・事後学修）	事前学修：各回の講義内容に沿ってテキストの該当箇所を確認し、概要を把握する。 事後学修：配布資料の確認やテキストの該当箇所の精読等を行い、各回の講義内容をまとめ、整理する。		
評価方法・評価基準	評価方法：出席日数で受験資格を判定し、定期試験と授業レポートにより成績評価する。 評価基準：定期試験では、講義内容に関する理解度を測る。授業レポートについては、テーマについて講義内容を踏まえて自身の考えを述べているかを評価する。		
テキスト	1. 標準保健師講座3 対象別公衆衛生看護活動 医学書院 2. 標準保健師講座2 地域看護技術 医学書院 3. 公衆衛生がみえる メディックメディア 4. 国民衛生の動向 厚生統計協会		
参考図書			
学生へのメッセージ等	必修科目。 看護師、保健師として必要な公衆衛生に関する対象別の政策と保健活動を学びます。		

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2年	2	選択
担当教員			
坂東 春美			
添付ファイル			

目的	行政機関の保健師が行う公衆衛生看護活動の内容と方法が理解できる		
目標	1) ハイリスク者・困難事例に対するへの支援システムが理解できる 2) 都道府県および市町村が行う対象別支援の内容と方法が理解できる		
授業計画	授業内容	授業形態	担当者
	第1回 母子保健 1 乳児健診受診者のフォローアップの方法	講義	坂東
	第2回 母子保健 2 発達障がいスクリーニングと家族支援の方法	講義	坂東
	第3回 母子保健 3 児童虐待防止と特定妊婦対策	講義	坂東
	第4回 母子保健 4 子育て世代包括支援センター	講義	坂東
	第5回 母子保健 5 小児慢性疾患と県保健所の活動	講義	坂東
	第6回 高齢者保健 1 介護保険制度と市町村地域支援事業	講義	坂東
	第7回 高齢者保健 2 在宅要援護高齢者の支援	講義	坂東
	第8回 高齢者保健 3 地域包括支援センターと地域包括ケア	講義	坂東
	第9回 高齢者保健 4 都道府県が取り組む地域包括ケアシステム構築	講義	坂東
	第10回 難病保健 1 難病保健対策の動向と法律および保健所の保健活動	講義	坂東
	第11回 難病保健 2 難病患者の健康課題と地域特性に応じた保健活動①	講義	坂東/ ゲストスピーカー
	第12回 難病保健 3 難病患者の健康課題と地域特性に応じた保健活動②	講義	坂東
	第13回 感染症保健 1 感染症発生動向調査（サーベイランス）・HIV/AIDSの現状と対策	講義	坂東
	第14回 感染症保健 2 新型インフルエンザ・食中毒等の対策・集団発生(アウトブレイク)時の対応とその支援	講義	坂東
	第15回 感染症保健 3 結核管理 平時および発生時の対応とその対策	講義	坂東
授業外学修（事前学修・事後学修）	事前学修：各回の講義内容にそって指定テキストの指定箇所を確認し、自ら概要を把握しておく 事後学修：各回の講義から自己のノートと配布資料等をもとに内容をまとめ、整理をしておく		
評価方法・評価基準	評価方法：定期試験（85%）と授業内で実施する小レポート（15%） 評価基準：定期試験は講義目標の内容に関する理解度を測る		

	小レポートは各テーマに対する思考が記述されているか 再試験は行わない方針である。															
テキスト	<table border="0"> <tr> <td>1</td> <td>標準保健師講座③対象別公衆衛生看護活動</td> <td>医学書院</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>標準保健師講座②公衆衛生看護技術</td> <td>医学書院</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>国民衛生の動向</td> <td>厚生統計協会</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>公衆衛生看護学.jp</td> <td>インターメディカル</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>公衆衛生がみえる</td> <td>MEDIC MEDIA</td> </tr> </table>	1	標準保健師講座③対象別公衆衛生看護活動	医学書院	2	標準保健師講座②公衆衛生看護技術	医学書院	3	国民衛生の動向	厚生統計協会	4	公衆衛生看護学.jp	インターメディカル	5	公衆衛生がみえる	MEDIC MEDIA
1	標準保健師講座③対象別公衆衛生看護活動	医学書院														
2	標準保健師講座②公衆衛生看護技術	医学書院														
3	国民衛生の動向	厚生統計協会														
4	公衆衛生看護学.jp	インターメディカル														
5	公衆衛生がみえる	MEDIC MEDIA														
参考図書																
学生へのメッセージ等	保健師選択科目です。保健師課程の履修を希望する学生は必ず履修しなければならない。															

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2年	1	選択
担当教員			
城島 哲子			
添付ファイル			

目的	公衆衛生看護における地域組織と様々なグループを育成する保健師の役割について学ぶとともに、組織・グループと協働して行う地域づくり活動が理解できる。		
目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 地域組織・当事者グループを育成する支援の方法が理解できる</li> <li>2. 活用できる社会資源の情報収集・情報提供、開拓の方法が理解できる</li> <li>3. 協働できる機関・人材とチームで問題解決を図る方法が理解できる</li> <li>4. 小グループ体験により自分の理解、グループメンバーの理解とグループプロセスを理解する。</li> </ol>		
授業計画	授業内容	授業形態	担当者
	第1回	講義・演習	城島
	演習① グループの定義、グループダイナミクス グループ体験（第1回）		
	第2回	講義・演習	城島
	演習② ヤーロムの治療因子 グループエンカウンターの種類 グループ体験（第2回）		
	第3回	講義・演習	城島
	演習③ グループプロセスと自己の変化 グループ体験の影響 グループ体験（第3回）		
	第4回	講義	城島
	公衆衛生看護における地域組織活動の位置づけと概念		
	第5回	講義	城島
健康増進と地域づくりをめざしたグループ活動			
第6回	講義	城島	
患者会・当事者によるセルフヘルプグループ			
第7回	講義	城島	
地域ケアシステムづくりとネットワーク化①			
第8回	講義	城島	
地域ケアシステムづくりとネットワーク化②			
授業外学修（事前学修・事後学修）	事前学修：各回の講義内容にそって指定テキストを確認し、自ら概要を把握しておく。 事後学修：各回の講義ノートと配布資料をもとに内容をまとめ、整理をしておく。		
評価方法・評価基準	出席回数によって受験資格を判定する。グループ体験は毎回の「参加レポート」と「課題レポート」を提出する。  筆記試験と課題レポートの合計点で評価する。再試験は実施しない。		
テキスト	標準保健師講座② 対象別地域看護技術 医学書院		
参考図書	講義中に紹介する		
学生へのメッセージ等	保健師選択科目です。保健師課程の希望者は必ず履修すること。		



開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2年	1	必修
担当教員			
田中 登美			
添付ファイル			

目的	緩和ケアの概念、慢性疾患やがんとともに生きる人とその家族を支える看護に必要な基礎知識を習得し、看護実践に必要な判断力や問題解決するための方法を学ぶ。また地域の課題やがんチーム医療のなかでの看護の役割を考察する。		
目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 緩和ケア、End of Life Care、Total Painの概念について説明できる。</li> <li>2. Advance Care Planning (ACP)の概念と意思決定支援について説明できる。</li> <li>3. 慢性疾患やがんとともに生きる人の抱える心理社会的苦痛および緩和のための支援について説明できる。</li> <li>4. 国内外のがんの動向と日本におけるがん対策、がん看護の役割および機能について説明できる。</li> <li>5. 奈良県のがんの動向および特徴、がん対策、実習施設である奈良県立医科大学附属病院でのがんチーム医療の取り組みなど、地域の課題を抽出し、その課題の解決を検討する(演習)。</li> <li>6. 終末期にある患者および家族への看護について説明できる。</li> </ol>		
授業計画	授業内容	授業形態	担当者
第1回	緩和ケア領域において用いられる概念の理解(1) ・緩和ケア ・End of Life Care ・Total Pain	講義	田中登美
第2回	緩和ケア領域において用いられる概念の理解(2) ・Advance Care Planning (ACP) ・意思決定支援	講義	田中登美
第3回	慢性疾患やがんとともに生きる人の抱える心理社会的苦痛 および緩和のための支援(1) ・慢性疾患やがんとともに生きる人の抱える心理社会的苦痛	講義	田中登美
第4回	慢性疾患やがんとともに生きる人の抱える心理社会的苦痛 および緩和のための支援(2) ・ソーシャルサポートの強化のための支援 ・就労を支えるための支援	講義	田中登美
第5回	国内外のがんの動向と日本におけるがん対策 ・国内外のがんの動向、取り組み ・日本のがん対策：がん対策基本法・がん対策推進基本計画 ・がん看護の役割および機能	講義	田中登美
第6回	地域の課題の抽出と課題の解決方法の検討 【事前課題(紙資料持参)】 ①奈良県におけるがんの動向およびその対策について以下の内容を調べる。 ・奈良県の人口動態、特徴など ・奈良県におけるがんの動向、特徴、がん対策など ②奈良県立医科大学附属病院における以下の内容を調べる。 ・奈良県立医科大学附属病院におけるがん医療の現状 ・がんチーム医療の活動内容 ・がん患者およびその家族に対する取り組み ・県民に対する取り組み(がん予防、ピュアサポートなど)  【グループワーク(70分)】 ①個人で調べてきた内容(奈良県におけるがんの動向およびその対策、奈良県立医科大学附属病院におけるがんチーム医療の活動内容、がん患者およびその家族、県民に対する取り組みなど)を共有する。 ②「奈良県のがん対策における課題およびその解決方法」について、グループで検討する。  【発表・まとめ(20分)】	演習	田中登美
第7回	終末期にある患者および家族への看護(1) ・死にゆく人を支え、その人の望む生き方を尊重した看護	講義	田中登美
第8回		講義	田中登美

	終末期にある患者および家族への看護 (2) ・家族への看護 ・遺族ケア		
授業外学修 (事前学修・事後学修)	事前学修として、各単元のテキストの範囲 (事前に通知する) または講義資料 (事前に配布する) を熟読し、講義に臨むこと。事後学修として、学習した内容をふまえた課題についてのレポートをまとめて、期間内に提出してください (教務システムフォルダ)。		
評価方法・評価基準	<ul style="list-style-type: none"> <li>●授業への出席状況の確認は、指定されたレポートの提出で出席とみなしますので、必ず提出してください (教務システムフォルダ)。</li> <li>●レポート課題：100% (授業内容の理解状況は提出されたレポートにより評価します) 各授業で学習した内容をふまえた課題を提示しますので、テーマに沿って自分でサブタイトルを決めたうえで学びをまとめてレポートを作成してください。</li> <li>●第6回のグループワークへの参加状況・事前課題の内容については、全体のレポート点の中に加算します。 欠席した場合 (or15分以上の退席) は、採点対象からは除外します。 事前課題は、授業開始時に持参した紙資料 (A4 2枚、スマホ画面などの電子媒体は不可) のみを採点対象とします。</li> </ul>		
テキスト	編集 恒藤暁・田村恵子 (2020) 系統看護学講座 別巻 緩和ケア, 医学書院		
参考図書	授業中に紹介する。		
学生へのメッセージ等	この授業内容は、今までの既習内容を「緩和ケア」という概念で統合していく授業です。将来、奈良県において看護専門職として活動するために、授業での学びを考察したり、自分でいろいろと調べながら、課題を見つけて考えることで学びを深めてください。積極的な学習態度を期待します。		

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2年	1	必修
担当教員			
石澤 美保子／佐竹 陽子／長田 艶子			
添付ファイル			
目的	加齢や疾患によりリハビリテーション看護が必要となる対象とその家族の精神・身体・社会的機能障害について学び、廃用症候群の予防、活動、・参加の促進へ向けた支援方法について理解する。		
目標	1) リハビリテーション看護の概念と理念について述べることができる。 2) 生活機能障害をもつ人とその家族が体験する障害の世界について理解できる。 3) リハビリテーション看護の目的と方法について説明できる。 4) おもな生活機能障害を持つ人のアセスメントと援助方法を説明できる。 5) 現代医療にあったリハビリテーション看護領域に関連する知識と技術（フットケア）を修得する。		
授業計画	授業内容	授業形態	担当者
	第1回 リハビリテーション看護の概念	講義	石澤美保子
	第2回 リハビリテーションを必要とする人の特徴（身体、心理、生活、家族）	講義	石澤美保子
	第3回 褥瘡の予防と管理	講義	石澤美保子
	第4回 褥瘡予防・管理とリハビリテーション	講義	石澤美保子
	第5回 フットケア	講義	石澤美保子
	第6回 フットケア技術	演習	石澤美保子 佐竹陽子 長田艶子 皮膚・排泄ケア認定看護師
	第7回 感覚器障害とリハビリテーション看護 視覚障害・聴覚障害患者	講義	石澤美保子
	第8回 まとめ 中間テスト	講義	石澤美保子
授業外学修（事前学修・事後学修）	事前学修として、各単元のテキストの範囲（事前に通知する）または講義資料（事前に配布する）を熟読し、講義に臨むこと。事後学修として、学修した内容をふまえた授業の復習または課題に取り組むこと。		
評価方法・評価基準	中間、期末試験85%、フットケア演習・レポート10%、Note of lectureの記載状況5%		
テキスト	リハビリテーション看護 ヌーヴェルヒロカワ （上記テキストは毎回の講義時必ず持参してください） はじめよう！フットケア（第3版） 日本看護協会出版会		
参考図書	適宜紹介する。		
学生へのメッセージ等	講義内容を理解するには、1年次の「健康の理解」（必修17単位）の各科目の復習が必要です。		

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2年	2	必修
担当教員			
小竹 久実子／栗田 麻美／武田 以知郎			
添付ファイル			
在宅看護学概論事前課題表2021.docx		事前学習課題（作成表） 教務システムを確認すること。	
概論事前事後課題内容一覧表2021.docx		事前事後課題内容一覧表 教務システムを確認すること。	

目的	在宅療養の場や在宅看護の対象を理解し、生活を捉えた在宅の視点と在宅看護の特徴を学ぶ。		
目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 在宅療養の場を理解する。</li> <li>2. 在宅看護の対象を理解する。</li> <li>3. 在宅看護の歴史の変遷を捉え、現在の保健医療福祉制度の知識を学び、在宅看護とのつながりを理解する。</li> <li>4. 在宅療養者の持つ疾病の特徴と健康の捉え方を理解する。</li> <li>5. 訪問診療の実際を知り、シームレスにケアをつなぐために、どのようなケアシステムと連携が必要か理解する。</li> <li>6. 療養者とその家族の意思決定を支援し、倫理的配慮をする必要性を理解する。</li> <li>7. 在宅看護を行うためにコミュニケーションスキルを磨くことの重要性を理解する。</li> <li>8. 在宅の視点(生活の視点)を理解する。</li> <li>9. 在宅における看護師の役割を理解する。</li> </ol>		
授業計画	授業内容	授業形態	担当者
第1回	2021年10月4日（月） 在宅療養の場と在宅看護の対象	講義	小竹
第2回	2021年10月18日（月） 在宅看護の歴史と保健医療福祉制度の変遷	講義	小竹
第3回	2021年10月18日（月） 在宅における保健医療福祉制度（介護保険） 1	講義 GW	小竹
第4回	2021年10月25日（月） 在宅における保健医療福祉制度（介護保険） 2 -事例でとらえる-	GW 発表	小竹
第5回	2021年10月25日（月） 在宅における保健医療福祉制度（医療保険）	講義 GW	小竹
第6回	2021年11月1日（月） 病院と在宅をシームレスにつなぐケア体制1	講義 GW	小竹・栗田
第7回	2021年11月1日（月） 病院と在宅をシームレスにつなぐケア体制2	GW 発表	小竹・栗田
第8回	2021年11月8日（月） 療養者とその家族の意思決定支援と倫理的配慮	講義 GW	小竹
第9回	2021年11月8日（月） 在宅の視点：生活を捉える視点	講義 GW	小竹
第10回	2021年11月16日（火） 訪問診療の実際－具体事例から再考する在宅ケアのあり方－	講義	武田・小竹
第11回	2021年11月16日（火） 訪問診療の実際－具体事例から再考する在宅ケアのあり方－	GW 発表	武田・小竹
第12回	2021年11月22日（月） 在宅看護の災害・緊急時対策	講義 GW	小竹
第13回	2021年11月22日（月） 訪問看護師のケアの実際と役割	講義 GW	小竹
第14回	2021年11月29日（月） まとめ1（発表会：訪問看護過程のプランまで）	GW 発表	小竹

	第15回 2021年11月29日（月） まとめ2（発表会：訪問看護過程のプランまで）	GW 発表	小竹
授業外学修（事前学修・事後学修）	授業毎に事前・事後課題があります。添付ファイルをご覧ください。 事前学習課題：添付ファイルにある事件事後課題内容一覧表2021を確認し、授業前に学習すること。 在宅看護学概論事前課題表2021は、提示された期限までに作成し授業終了後提出すること。 事後学習課題：添付ファイルにある事件事後課題内容一覧表2021を確認し、提出期限までに在宅看護学メールボックスに提出すること		
評価方法・評価基準	定期試験、レポート、授業参加状況を総合的に評価する		
テキスト	杉本正子他編集：在宅看護論 実践をことばに第6版、NOUVELL HIROKAWA、2017.		
参考図書	臺有桂 他編集：ナーシンググラフィカ在宅看護論、地域療養を支えるケア、メディカ出版、2018.		
学生へのメッセージ等	2025年問題が迫る中、在宅看護は重要であり、在宅看護師が担うべき役割は大きいです。在宅看護は、予防から健康増進回復、ターミナルケア、災害看護など多岐にわたり、カリキュラムの中では「統合看護学」に位置付けられた看護の応用科目です。また同時に看護の本質を学べる科目でもあります。在宅看護学を学びながら、「看護とは何か」を一緒に考えていきましょう。 ※コロナの影響で授業スタイル等が変更する可能性があります。		

No	科目名	授業方法	単位	実務経験 内容 (職種)	担当教員名
1	病態医学Ⅰ	講義	2	医師	大林千穂、藤井智美、森田剛平、伊丹弘恵、内山智子、西川武、武田麻衣子
2	病態医学Ⅱ	講義	4	医師	濱田薫、庄雅之、河村健二、池田直也、学内眼科専門医 1名、学内耳鼻咽喉科専門医 1名、学内整形外科専門医 1名
3	看護学概論	講義・演習	1	看護師	松田明子
4	看護援助の基本	講義・演習	1	看護師	松田明子、徳谷純子
5	看護技術学Ⅰ	講義・演習	1	看護師	松田明子
6	フィジカルアセスメント	講義・演習	1	看護師	松田明子、三好雅之、浅野沙奈絵
7	看護過程論	講義・演習	2	看護師	松田明子
8	基礎看護学実習Ⅰ	実習	1	看護師	松田明子、浅野沙奈絵
9	病態医学Ⅲ	講義	4	医師	太田豊作、田中晴之、福島英賢、前川尚宜、瓜園泰之、川井廉之、内田優美子、大前隆志、長谷川真理、大西智子、荻原建一、阿部龍一、田中利洋、伊藤高広、山崎正晴、長安実加、中井靖、鯨島謙一
10	看護倫理学	講義・演習	1	看護師 その他	松田明子、安藤泰至、山本美輪、伊藤雪絵 大河内大博
11	看護技術学Ⅱ	演習	1	看護師	松田明子、浅野沙奈絵
12	健康障害と看護	講義・演習	1	看護師	松田明子
13	ヘルスアセスメント	講義	1	看護師	松田明子
14	基礎看護学実習Ⅱ	実習	2	看護師	松田明子、浅野沙奈絵
15	成人看護学概論	講義	2	看護師	石澤美保子、田中登美
16	成人看護学援助論Ⅰ	講義	1	看護師	長田艶子、佐竹陽子
17	成人看護学援助論Ⅱ	講義・演習	1	看護師	石橋千夏、升田茂章
18	老年看護学概論	講義	2	看護師	澤見一枝、木村満夫、古角美保子
19	老年看護学援助論Ⅰ	講義・演習	1	看護師	澤見一枝、木村満夫、古角美保子
20	小児看護学概論	講義	2	看護師	川上あずさ
21	小児看護学援助論Ⅰ	講義	1	看護師	小代仁美
22	母性看護学概論	講義	2	助産師	五十嵐稔子
23	母性看護学援助論Ⅰ	講義・演習	1	助産師	森兼眞理、岡山真理
24	精神看護学概論	講義	2	看護師	風間眞理
25	精神看護学援助論Ⅰ	講義・演習	1	看護師	橋本顕子、風間眞理
26	公衆衛生看護学概論	講義	2	保健師	城島哲子
27	公衆衛生看護学活動論Ⅰ	講義	2	保健師 その他	城島哲子、堀内沙央里 日高庸晴(研究者)
28	公衆衛生看護学活動論Ⅱ	講義	2	保健師	坂東春美
29	公衆衛生看護学活動論Ⅲ	講義・演習	1	保健師	城島哲子
30	緩和ケア論	講義・演習	1	看護師	田中登美
31	リハビリテーション看護	講義・演習	1	看護師	石澤美保子、佐竹陽子、長田艶子
32	在宅看護学概論	講義・グループワーク	2	看護師 医師	小竹久実子、栗田麻美 武田以知郎
33	保健医療福祉行政論Ⅰ	講義	1	その他	村上真(研究員)
34	保健医療福祉行政論Ⅱ	講義・演習	2	その他	村上真(研究員)
35	保健統計学Ⅰ	講義	1	診療放射線技師	周藤俊治
36	保健統計学Ⅱ	講義・演習	1	診療放射線技師	周藤俊治
37	成人看護学援助論Ⅲ	講義・演習	1	看護師	佐竹陽子、長田艶子、森脇裕美、石澤美保子
38	成人看護学援助論Ⅳ	講義・演習	1	看護師	升田茂章、石橋千夏、田中登美
39	成人看護学実習Ⅰ	実習	3	看護師	佐竹陽子、長田艶子、石澤美保子
40	成人看護学実習Ⅱ	実習	3	看護師	石橋千夏、升田茂章、田中登美
41	老年看護学援助論Ⅱ	講義・演習	1	看護師	澤見一枝、木村満夫、古角美保子
42	老年看護学実習	実習	4	看護師	澤見一枝、木村満夫、古角美保子
43	小児看護学援助論Ⅱ	講義・演習	1	看護師	山田晃子、川上あずさ
44	小児看護学実習	実習	2	看護師	山田晃子、小代仁美、川上あずさ
45	母性看護学援助論Ⅱ	講義・演習	1	助産師	森兼眞理、岡山真理
46	母性看護学実習	実習	2	助産師	森兼眞理、岡山真理、乾つづら、上田佳世、五十嵐稔子
47	精神看護学援助論Ⅱ	講義・演習	1	看護師	奥田淳、風間眞理
48	精神看護学実習	実習	2	看護師	奥田淳、橋本顕子、風間眞理
49	家族看護学	講義・演習	2	看護師 その他	川上あずさ 粕井みづほ
50	在宅看護学援助論	講義・演習	2	看護師	栗田麻美、小竹久実子、西森旬恵、羽場香織
51	在宅看護学実習	実習	2	看護師	栗田麻美、小竹久実子、西森旬恵、羽場香織
52	ヘルスプロモーションと健康教育	講義・演習	2	保健師	城島哲子、堀内沙央里
53	医療安全	講義・演習	1	看護師	松田明子、飛田伊都子、霧下由美子、徳谷純子
54	疫学	講義・演習	2	医師	佐伯圭吾
55	公衆衛生看護学活動展開論	講義・演習	2	保健師	坂東春美、城島哲子、堀内沙央里
56	公衆衛生看護学保健指導論Ⅰ	講義・演習	2	保健師 医師 管理栄養士	坂東春美、堀内沙央里 中川仁、中谷敏昭、 岩橋明子、野原潤子
57	公衆衛生看護学保健指導論Ⅱ	講義・演習	1	保健師	坂東春美、堀内沙央里
58	産業保健活動論	講義・演習	1	保健師	城島哲子、河田志帆
59	学校保健活動論	講義	1	養護教諭	古川恵美
60	公衆衛生看護管理論	講義・演習	2	保健師	城島哲子、朽木悦子
61	公衆衛生看護学実習Ⅰ	実習	2	保健師	坂東春美、堀内沙央里、城島哲子
62	公衆衛生看護学実習Ⅱ	実習	3	保健師	坂東春美、堀内沙央里、城島哲子
63	看護管理論	講義・グループワーク	1	看護師	川上あずさ、撫養真紀子、橋口智子、平島規子、田中奈都
64	看護研究特論	講義・演習	1	看護師	川上あずさ、他看護学科全教員
65	看護研究	実習	2	看護師	看護学科教員
66	統合実習	実習	2	看護師	看護学科教員
67	災害看護論	講義・演習	1	看護師	西上あゆみ
68	チーム医療論	講義・演習	1	医師	太田豊作
69	国際看護論Ⅰ	講義・演習	1	看護師	升田茂章、堀内沙央里
	計		111		

# 看護学科 教員名簿

(看護学科専任教員)

(2021年4月1日付)

領 域 名	職 名	氏 名	部屋番号	領 域 名	職 名	氏 名	部屋番号
人間発達学	教授	太田 豊作	505	小児看護学	教授	川上 あずさ	502
					講師	小代 仁美	408
臨床病態医学	教授	濱田 薫	404		講師	山田 晃子	406
基礎看護学	教授	松田 明子	403	母性看護学	教授	五十嵐 稔子	401
	助教	浅野 沙奈絵	第 1 共同研究室		講師	乾 つぶら	514
	助教	吉川 あゆみ	510		講師	森兼 眞理	407
			講師		上田 佳世	513	
成人急性期看護学	教授	石澤 美保子	503	助教	岡山 眞理	第 1 共同研究室	
	講師	長田 艶子	408	精神看護学	教授	風間 眞理	405
	講師	佐竹 陽子	501		講師	橋本 顕子	407
助教	森脇 裕美	第 1 共同研究室	講師		奥田 淳	508	
成人慢性期看護学	教授	田中 登美	507	在宅看護学	教授	小竹 久実子	402
	講師	石橋 千夏	514		講師	栗田 麻美	513
	講師	升田 茂章	508		助教	西森 旬恵	510
			助教		羽場 香織	第 1 共同研究室	
老年看護学	教授	澤見 一枝	504	公衆衛生看護学	教授	城島 哲子	506
	助教	木村 満夫	512		准教授	坂東 春美	509
	助教	古角 美保子	510		助教	堀内 沙央里	第 1 共同研究室

## (教養教育部門専任教員／看護学科兼担教員)

(2021年4月1日付)

氏名	授業科目名	所属等	教室
池邊 寧	哲学 医療に関わる倫理学Ⅰ・Ⅱ 西洋文化論	教養教育部門哲学准教授	教養2階哲学教室
フランチェスコ・ボルスタッド	臨床英語Ⅰ・Ⅱ 英語表現法Ⅰ・Ⅱ	教養教育部門臨床英語教授	教養2階英語教室
ポール・マシソン	臨床英語Ⅰ・Ⅱ 英語表現法Ⅰ・Ⅱ	教養教育部門臨床英語准教授	教養3階英語教室
マイケル・プロジェクト	英語表現法Ⅰ・Ⅱ	教養教育部門臨床英語講師	教養3階英語教室
裏山 悟司	生物学	教養教育部門生物学助教	教養3階生物学教室
山本 恵三	化学	教養教育部門化学准教授	教養2階化学教室
石指 宏通	健康科学 健康運動学	教養教育部門保健体育教育教授	体育館
矢野 寿一	微生物学	医学科微生物感染症学教授	基礎4階微生物感染症学教室
中野 竜一	微生物学	医学科微生物感染症学准教授	基礎4階微生物感染症学教室
中野 章代	微生物学	医学科微生物感染症学助教	基礎4階微生物感染症学教室
今村 知明	公衆衛生概論	医学科公衆衛生学教授	基礎4階公衆衛生学教室
野田 龍也	公衆衛生概論	医学科公衆衛生学准教授	基礎4階公衆衛生学教室
岡本 左和子	公衆衛生概論	医学科公衆衛生学講師	基礎4階公衆衛生学教室
西岡 祐一	公衆衛生概論	医学科公衆衛生学助教	基礎4階公衆衛生学教室
周藤 俊治	保健統計学Ⅰ・Ⅱ	地域医療学講座准教授	地域医療学講座
和中 明生	人体構造学	医学科第二解剖学教授	基礎1階第二解剖学教室
辰巳 晃子	人体構造学	医学科第二解剖学准教授	基礎1階第二解剖学教室
田中 達英	人体構造学	医学科第二解剖学講師	基礎1階第二解剖学教室
齋藤 康彦	人体機能学	医学科第一生理学教授	基礎3階第一生理学教室
堀江 恭二	人体機能学	医学科第二生理学教授	基礎3階第二生理学教室
坂野 公彦	人体機能学	医学科第二生理学講師	基礎3階第二生理学教室
吉田 純子	人体機能学	医学科第二生理学助教	基礎3階第二生理学教室
高澤 伸	生化学	医学科生化学教授	基礎2階生化学教室
山内 晶世	生化学	医学科生化学助教	基礎2階生化学教室
牧野 舞	生化学	医学科生化学助教	基礎2階生化学教室
大林 千穂	病態医学Ⅰ	医学科病理診断学教授	病理診断科医局
藤井 智美	病態医学Ⅰ	医学科病理診断学准教授	病理診断科医局
森田 剛平	病態医学Ⅰ	医学科病理診断学助教	病理診断科医局
伊丹 弘恵	病態医学Ⅰ	医学科病理診断学講師	病理診断科医局
内山 智子	病態医学Ⅰ	医学科病理診断学助教	病理診断科医局
西川 武	病態医学Ⅰ	病院病理部副技師長	病院病理部技局
武田 麻衣子	病態医学Ⅰ	医学科病理診断学講師	病理診断科医局
庄 雅之	病態医学Ⅱ	医学科消化器・総合外科学教授	消化器総合外科学
河村 健二	病態医学Ⅱ	玉井進記念四肢外傷センター准教授	整形外科医局
池田 直也	病態医学Ⅱ	乳腺センター准教授	消化器総合外科学
吉栖 正典	基礎薬理学	医学科薬理学教授	基礎3階薬理学教室
中平 毅一	臨床薬理学	医学科薬理学准教授	基礎3階薬理学教室
京谷 陽司	臨床薬理学	医学科薬理学助教	基礎3階薬理学教室
趙 晶	臨床薬理学	医学科薬理学助教	基礎3階薬理学教室
田中 晴之	病態医学Ⅲ	医学科呼吸器内科学助教	呼吸器内科医局
福島 英賢	病態医学Ⅲ	医学科救急医学教授	救急科医局
前川 尚宜	病態医学Ⅲ	医学科救急医学講師	救急科医局
瓜園 泰之	病態医学Ⅲ	医学科救急医学講師	救急科医局
川井 廉之	病態医学Ⅲ	医学科救急医学助教	救急科医局
内田 優美子	病態医学Ⅲ	総合周産期母子医療センター講師	小児科医局
大前 隆志	病態医学Ⅲ	地域医療学講座特任助教	地域医療学講座
長谷川 真理	病態医学Ⅲ	医学科小児科学助教	小児科医局
荻原 建一	病態医学Ⅲ	医学科小児科学助教	小児科医局
大西 智子	病態医学Ⅲ	医学科小児科学診療助教	小児科医局
阿部 龍一	病態医学Ⅲ	中央手術部助教	中央手術部医局
田中 利洋	病態医学Ⅲ	医学科放射線医学准教授	放射線科医局
伊藤 高広	病態医学Ⅲ	医学科放射線医学講師	放射線科医局
山崎 正晴	病態医学Ⅲ	中央臨床検査部病院教授	中央臨床検査部技局
長安 実加	病態医学Ⅲ	医学科産婦人科学助教	産婦人科医局
三宅 龍太	病態医学Ⅲ	医学科産婦人科学医員	産婦人科医局
中井 靖	病態医学Ⅲ	医学科泌尿器科学内講師	泌尿器科医局
後藤 大輔	病態医学Ⅲ	医学科泌尿器科助教	泌尿器科医局
鮫島 謙一	病態医学Ⅲ	医学科腎臓内科学講師	腎臓内科学医局
佐伯 圭吾	疫学	医学科疫学・予防医学教授	基礎4階疫学・予防医学教室
大林 賢史	疫学	医学科疫学・予防医学特任准教授	基礎4階疫学・予防医学教室
山上 優紀	疫学	医学科疫学・予防医学助教	基礎4階疫学・予防医学教室
中川 仁	公衆衛生看護学保健指導論Ⅰ	医学科循環器内科学助教	循環器内科学医局



## (教養教育部門非常勤講師／看護学科非常勤講師)

(2021年4月1日付)

氏名	授業科目名	所属等
近池 操	臨床心理学	奈良県病院協会看護専門学校 非常勤講師
山本 典子	臨床心理学	大阪大学 非常勤講師
宿谷 仁美	臨床心理学	関西福祉科学大学 講師
池上 徹	教育実践論	関西福祉科学大学 准教授
板橋 孝幸	教育実践論	奈良教育大学 教授
谷 直之	社会福祉と医療法規	同志社女子大学 教授
倉持 史郎	社会福祉と医療法規	同志社女子大学 准教授
エルリッヒ・スウェン・マーティン	異文化論	甲南大学国際言語文化センター、京都府立大学、関西学院大学、神戸女学院大学、立命館大学 非常勤講師
スフィアン・エルファンディ	臨床英語Ⅰ 臨床英語Ⅱ	
リマ・ガシュット	臨床英語Ⅰ 臨床英語Ⅱ	
メリッサ・ハミルトン	臨床英語Ⅰ 臨床英語Ⅱ	
クレア・ムレイ	臨床英語Ⅰ 臨床英語Ⅱ	
北澤 良子	英語表現法Ⅰ 英語表現法Ⅱ	
浅井 良純	アジア文化論	同志社大学 嘱託講師
富岡 三智	アジア文化論	立命館大学、京都産業大学、甲南女子大学 非常勤講師
水野 杏紀	アジア文化論	関西医療大学 非常勤講師
勝井 伸子	西洋文化論	森ノ宮医療大学 非常勤講師
折井 穂積	西洋文化論	
中川 晶	カウンセリング論	なかがわ中之島クリニック 院長
田中 佐和子	カウンセリング論	奈良学園大学 非常勤講師
村上 真	保健医療福祉行政論Ⅰ 保健医療福祉行政論Ⅱ	京都国際社会福祉センター 非常勤講師
河野 秀壽命	日本国憲法	龍谷大学 非常勤講師
堀 あきこ	家族社会学	大阪電気通信大学 非常勤講師
古屋 哲	国際情勢論	立命館アジア太平洋大学 非常勤講師
神奈川 芳行	公衆衛生概論	東日本旅客鉄道株式会社 東日本健康推進センター 医長
清水 多嘉子	公衆衛生概論	がん研有明病院 看護部長
久保 慎一郎	公衆衛生概論	厚生労働省
浅野 弘明	情報科学	京都府立医科大学 特任教授
小島 ゆかり	栄養学	近畿大学 非常勤講師
安藤 泰至	看護倫理学	鳥取大学 准教授
伊藤 雪絵	看護倫理学	奈良県立医科大学附属病院 臨床研究センター
大河内 大博	看護倫理学	願生寺
山本 美輪	看護倫理学	香川大学 教授
徳谷 純子	看護援助の基本 医療安全	奈良県立医科大学附属病院 感染管理室
三好 雅之	フィジカルアセスメント	鳥取大学 特命助教
石原 興子	精神看護学援助論Ⅰ チーム医療論	相愛大学 准教授
日高 庸晴	公衆衛生看護学活動論Ⅰ	宝塚大学 教授
野原 潤子	公衆衛生看護学保健指導論Ⅰ	畿央大学 講師
岩橋 明子	公衆衛生看護学保健指導論Ⅰ	帝塚山大学 講師
中谷 敏昭	公衆衛生看護学保健指導論Ⅰ	天理大学 教授
河田 志帆	産業保健活動論	京都先端科学大学 講師
古川 恵美	学校保健活動論	畿央大学 准教授
朽木 悦子	公衆衛生看護管理論	社会医療法人景岳会
撫養 真紀子	看護管理論	兵庫県立大学 教授
橋口 智子	看護管理論	奈良県立医科大学附属病院看護部長
平島 規子	看護管理論	奈良県立医科大学附属病院 看護部
田中 奈都	看護管理論	奈良県立医科大学附属病院 看護部
松田 千登勢	家族看護学	摂南大学 教授
粕井 みづほ	家族看護学	畿央大学 客員教授
武田 以知郎	在宅看護学概論	明日香村国民健康保険診療所
増野 章子	在宅看護学援助論	日本保健医療大学 講師
西上 あゆみ	災害看護論	藍野大学 教授
飛田 伊都子	医療安全	滋慶医療科学大学院大学 教授
霧下 由美子	医療安全	奈良県立医科大学附属病院 医療安全推進室
大川 純代	国際看護論Ⅰ	大阪国際がんセンター
新垣 智子	国際看護論Ⅰ	りんくう総合医療センター
馬場 雄司	国際看護論Ⅰ	京都文教大学 教授